



コカ・コーラウエストグループ

CSRレポート2017

Corporate Social Responsibility Report 2017

みんなの あしたに ハッピーを

Coca-Cola **West**

コカ・コーラウエストグループCSRレポート2017

○ コカ・コーラウエストグループのご紹介

持続可能な社会に貢献し、ステークホルダーのみなさまに「ハッピー」をお届けするという使命のもと、共創価値(CSV)をつくり出す活動に取り組んでいます。また、その情報をホームページなどで広く発信しています。本レポートでは、2016年の主な取り組みと、活動の進捗についてご報告します。

○ 数字で見るコカ・コーラウエストグループ2016 トピックス



○ 自動販売機

冷却のための電力を最長16時間使用せず、日中の消費電力を最大95%削減する「ピークシフト自販機」や、災害でライフラインが被害を受けた場合に清涼飲料を無償提供する「災害対応型自動販売機」、募金ができる「支援型自動販売機」、「マルチマネー対応自動販売機」など、時代に応じた「ハッピー」を届けています。

● ピークシフト自販機

省エネに特化して、早く冷えて音が静かな最新の自動販売機です。



最長**16**時間
日中の冷却運転を停止

最大時**95**%
日中の消費電力を削減

● 災害対応型自動販売機

緊急時に運転を切り替え、無償で清涼飲料を提供できます。



● 支援型自動販売機

売上が社会貢献事業やスポーツ活動の一部に活かされます。



- 年間消費電力量削減
- 早く冷える
- 新型LED照明
- 音が静か
- 改正省エネ法対応機種
- 人感センサー搭載
- ノンフロン

○ 報告範囲

[対象組織]

原則としてコカ・コーラウエスト株式会社および主要なグループ会社※を対象としています。

※コカ・コーラウエストベンディング株式会社、コカ・コーラウエスト販売機器サービス株式会社、コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社、コカ・コーラウエストセールスサポート株式会社など

[報告期間]

2016年(2016年1月～2016年12月)の活動内容を中心にご報告していますが、より正確な情報をお伝えるため、一部については当該期間以外の活動についてもご報告しています。

● 冊子版

2016年のトピックス、活動の進捗を分かりやすくまとめました。

発行時期:2017年4月

● Webサイト

広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。

<http://www.ccwest.co.jp/csr/>

○ 主要製品

お客さまの価値観や嗜好の変化、ライフスタイルの多様化に対応し、さまざまなニーズにお応えする製品をお届けします。

● 主要ブランド



● ラインナップ



COCA-COLA, コカ・コーラ, COCA-COLA ZERO, コカ・コーラ ゼロ, FANTA, ファンタ, SPRITE, スプライト, REAL GOLD, リアルゴールド, REAL, リアル, GEORGIA, ジョージア, 綾鷹, あやたか, 爽健美茶, そうけんびちゃ, KOCHAKADEN, 紅茶花伝, AQUARIUS, アクエリアス, AQUARIUS ZERO, アクエリアス ゼロ, MINUTE MAID, ミニッツメイド, Qoo, クー, YOGUR STAND, ヨーグルスタンド, I LOHAS, いろはす, からだすこやか茶, からだ巡茶は, The Coca-Cola Companyの登録商標です。
CANADADRY, カナダドライは, Atlantic Industriesの登録商標です。
Glaceau, グラソーは, Energy Brands Inc.の登録商標です。
©The Coca-Cola Company

最新の情報は日本コカ・コーラ株式会社ウェブサイトでご確認ください。<http://www.cocacola.co.jp/brands/new-products/>

CONTENTS

トップメッセージ P3

CSVの考え方 P5

特別報告

平成28年 熊本地震 P7

特集1

森を守ることは
未来の水を守ること P13

特集2

地域のハッピーを広げる P17

特集3

お客さまの期待に応えるために P21

特集4

もっと女性が
ハッピーに働くために P23

社外ステークホルダーの
みなさまからの声 P27

重点項目

健康 P29

環境 P30

コミュニティ P33

お客さま満足 P35

品質保証 P37

コンプライアンス P39

リスク管理 P40

人権尊重と
社員の働きがい P41

2016年活動実績 P43

コカ・コーラウエストグループの
概要 P45

Welcome!工場見学 裏表紙

みんなの あしたに ハッピーを

Coca-Cola West

トップメッセージ

より大きなステ

コカ・コーラウエスト株式会社は、1960年に前身である日米飲料株式会社として産声をあげて以来、西日本に拠点を置く5つのボトリング会社[※]との経営統合を進め、現在では関西・中国・四国・九州の2府20県で事業を展開し、国内におけるコカ・コーラブランド商品の販売総量のうち、約35%を取り扱うまでに成長しました。

現在に至る道のりを振り返りますと、さまざまなステークホルダーから当社グループに寄せられる期待、そして私どもが果たすべき責任は、時代の流れとともに速いスピードで変わっていくものと改めて感じています。

当社グループは社会的責任に関する国際規格であるISO26000に則ってCSRの重点項目を定め、その実現を目指してまいりました。本年4月には、南東北・関東・東海の1都15県を事業エリアとするコカ・コーライーストジャパン株式会社との経営統合を通じ、さらに大きなステージに立つこととなりますので、決意も新たに従来のCSRの取り組みを進化させた「共創価値(CSV)」として経営の根幹に位置づけました。今後は当社グループの全社員、全事業部門が、自らの仕事の中で「共創価値(CSV)」の追求に力を注いでまいります。

事業の拡大には環境や社会面での犠牲を伴わざるを得ないという考え方の企業には、持続可能な成長はあり得ません。当社グループが目指すのは、近視眼的な利益の

※ザ・コカ・コーラカンパニーの認定を受け、コカ・コーラブランド製品の製造・販売を行う会社

社会との共創価値 (CSV: Creating Shared Value)

社会への責任を果たすとともに、当社事業を通じて社会課題解決に貢献し、同時に当社の成長を実現する取り組み。

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)

人間、地球および繁栄のための17の目標と169のターゲットからなる。ニューヨーク国連本部で150を超える加盟国首脳が参加して採択。

新統合会社の概要

社名	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Inc.
代表者	代表取締役 吉松民雄 社長 代表取締役 ヴिकास・ティク 副社長 最高財務責任者(CFO) 兼 セネラルマネジャー トランスフォーメーション
所在地	(本店)福岡県福岡市 (本社)東京都港区
販売エリア	1都2府35県
販売数量	約5億ケース
設立日	2017年4月1日



ージで「共創価値 (CSV)」を実現します。

追求ではなく、広い視野と高い視座を持ち、環境や社会が目指すものと私どもの事業運営上でのビジョンを密に重ね合わせていくことです。企業理念に掲げる持続可能な社会の発展を常に念頭におき、「お客さま満足」「品質保証」「コンプライアンス」「リスク管理」「人権尊重と社員の働きがい」というこれまでの重点項目を遵守しつつ、さらにコカ・コーラブランドの持つ強みを生かしてお届けできる付加価値は何か、地域の抱える社会問題の中で事業を通じて貢献すべきことは何かを真剣に考え、実践してまいります。

2015年の国連サミットで、日本を含む国連加盟国は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択、その中で2030年をゴールとする17の「持続可能な開発目標 (SDGs)」が示されました。当社グループもこの大きな道筋に沿って、さらに日本という国や事業を展開するエリア・各自治体の課題を照らし合わせた結果、次の3つの課題が見えてまいりました。

●健康

人びとが日常的に口にする飲料を扱う企業として、おいしく安全であり心と体をうるおす、さらには健康増進に役立つ商品をお届けします。加えて、正しい飲食習慣の啓発に努め、摂取カロリーに見合った運動等を取り入れたライフスタイルを提唱します。さらに、心身の健康という点で日本特有の諸課題にも目を向け、その解決に向けた取り組みを推進します。

●環境

人間の生存に欠かせない水を含めた自然資源を有効活用し、持続可能な地球環境を守ることは私どもの重要な使命です。製品の製造過程や外装パッケージにも工夫を重ね、製造にあたっての水使用量の削減、低環境負荷素材の開発導入を進めるとともに、空容器リサイクルや老朽機器類の再資源化など、バリューチェーン全体を視野に入れ、パートナーと力を合わせてより大きな展開を目指します。

●コミュニティ

それぞれの会社が大切にし、統合の歴史の中でも一貫して引き継がれ、今後も変わらずに守っていくべきスタンスは、「地域密着」であり、「お客さま起点」です。事業エリアが拡大してもこの姿勢は揺らぐことなく、今後も各地域のみなさまとともに成長してまいります。

当社の成功が社会問題の解決に繋がり、世の中を良い方向に変えていく原動力にするという志。言い換えれば、社会的価値を生まないならば当社の成功とは呼べない、という気概を社員一人ひとりが自然に抱くことのできる品格ある企業として、みなさまの信頼とご支持を頂きますよう、これからも努めてまいります。今まで積み上げてきたCSRの集大成、また未来に向けた「共創価値 (CSV)」への宣言として、本レポートをお届け致します。

コカ・コーラウエスト株式会社
代表取締役社長

吉松民雄



企業理念

飲料を通じて
価値ある「商品、サービス」を提供することで、
お客さまの
ハッピーでいきいきとしたライフスタイルと
持続可能な社会の発展に
貢献します。



共創価値を通じて、持続可能な未来へ

私たちは「健康」「環境」「コミュニティー」を最優先に位置づけ、社会との「共創価値(CSV)」実現を目指します。また、企業の社会的責任に関する国際規格であるISO26000の7つの中核主題に基づき、「お客さま満足」「品質保証」「コンプライアンス」「リスク管理」「人権尊重と社員の働きがい」にも重点的に取り組みます。

健康

心とカラダをうるおすために

優先課題

- 食の貧困解消
- 高齢化対策
- 生活習慣病の低減

取り組み例

- 商品パッケージの前面にカロリーを表示
- ゼロまたは低カロリー商品、特定保健用食品(トクホ)、機能性表示食品等を幅広くラインナップ
- さまざまな飲用機会に合わせて、バラエティに富んだサイズを展開
- 熱中症対策講座の実施等、健康増進に関する情報発信 等

環境

持続可能な明日のために

優先課題

- 水資源保護
- 地球温暖化対策
- 資源枯渇の防止

取り組み例

- 省エネを実現する最新技術の導入
 - 自動販売機、冷却機器類のノンフロン化
 - ウォーター・ニュートラリティー*の推進
 - 植物由来樹脂やリサイクルPETを用いたPETボトルの採用
 - 容器の軽量化
 - 空容器回収とリサイクル 等
- *製造時に使用した水と同等量の水を100%還元する

コミュニティ

みんなのハッピーのために

優先課題

- 地域社会の活性化
- 青少年の健全な育成
- スポーツ振興

取り組み例

- 教育や文化プログラムを通じた地域への貢献
- 災害対応型自動販売機等、被災地支援
- スポーツ教室
- 地域美化活動 等



お客さま満足

- 多様化するニーズへの対応
- 外国語表示やスマホアプリ対応自動販売機の展開
- 責任あるマーケティング

品質保証

- 国際規格認証による品質管理
- お客さま起点の品質保証
- 食品安全への各種取り組み

コンプライアンス

- 行動規範の徹底
- 内部通報制度の運用
- コーポレートガバナンス体制の強化

リスク管理

- BCP(事業継続計画)の強化
- リスクの発生予防と危機管理
- 情報保護

人権尊重と社員の働きがい

- ダイバーシティとワークライフバランスの推進
- 職場での労働安全遵守と人権の尊重
- 人材育成

●CSVヒストリー

1989年	クラシックコンサート初開催	2010年	「ecoる／ソーラー自動販売機」導入開始 4側面の国際認証を全工場にて取得完了
1993年	特別支援学校に情報機器教材贈呈開始	2013年	「ピークシフト自販機」導入開始
1994年	小学校へ一輪車贈呈開始 ファミリーミュージカル初開催	2014年	「さわやか自然の森」活動などを通じ、 水源涵養量100%を達成 ISO14001を南九州エリア、株式会社ウエックスで拡大認証取得
1998年	ISO9001を本郷・鳥栖・基山各工場にて取得 (以降4側面の国際認証※1を各工場にて順次取得)	2015年	サステナブル・パッケージ「ペコらくボトル」全エリア展開
1999年	エコカー導入開始	2016年	ISO14001を四国コカ・コーラボトリング株式会社の 全事業所で拡大認証取得
2003年	災害対応型自動販売機導入開始 北九州さわやかリサイクルセンター稼働開始 市村自然塾九州 開塾		※1:4側面の国際認証 ISO9001・・・品質マネジメントシステムの国際規格 FSSC22000・・・食品安全マネジメントシステムの国際規格 ISO14001・・・環境マネジメントシステムの国際規格 OHSAS18001・・・労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格
2005年	ノンフロン型自動販売機導入開始		※2:ISO10002・・・ご指摘対応の基本原則やご指摘対応プロセスの 手順を規定した国際規格
2006年	さわやか自然の森 森林保全活動開始		
2007年	ISO10002※2 適合宣言 ワークライフバランス取り組み開始		

平成28年

熊本地震



1 機能したBCP

その時、いかに行動し、 どう対応したのか

平成28年(2016年)4月に発生した熊本地震では、14日の前震と16日の本震、2度の最大震度7の地震に見舞われ、各地に大きな被害が広がりました。当社グループでは、事前に策定されていたBCP(事業継続計画)に従い、迅速な復旧活動と支援活動を実施。震源に近い熊本工場においても本震発生9日後には製造を再開し、製品を市場に提供することができました。



4月16日、南阿蘇村の黒川地区の様子
(熊本日日新聞2016年5月13日掲載)

熊本県内の各所で道路が崩落



甲佐町 井戸江峡付近

断水、停電、道路の分断など被害は広範囲におよびました



4/14 21:31
最大震度7の前震発生
安否確認システムが作動



前震発生5分後にBCPに基づく安否確認システムが作動、社員全員の安全を確認。

4/15 08:00
災害対応型自動販売機稼働
製品の提供スタート



熊本県内に設置された災害対応型自動販売機34台が稼働。熊本・大分各県の被災地へ製品の提供を開始。

4/16 01:32
最大震度7の本震発生
安否、施設・設備の確認



本震発生7分後に安否確認と初動対応を開始。朝までに社員とその家族全員の無事を確認。熊本工場をはじめ、熊本県内の事業所で被害を確認する。



4月17日、熊本県庁の様子
(熊本日日新聞2016年4月18日掲載)

2県9市町村への製品支援は4月15日にスタート



吉松社長が被災地の社員を激励



お客さま対応のための仮設コンタクトセンター

熊本工場における
各設備の
試運転を開始

熊本工場
ロードセル*の
修理完了

熊本工場
配線ラック
復旧完了

被災地社員の
健康相談実施

現地対策本部終了

4/20

4/21

4/22

4/24

4/25

5/6

5/27

* 荷重計の一種

4/20 11:00

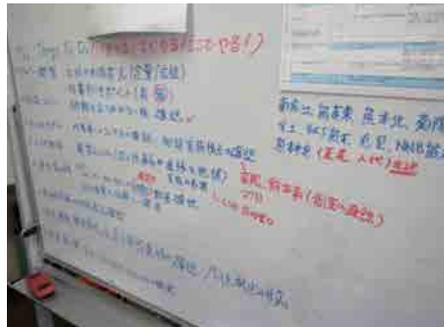
被災地社員への支援
毎日600食の昼食配布開始



被災地社員へ毎日600食の昼食を配布開始。
熊本県内の複数施設で休憩室・シャワールームを
開放し、復旧にあたる社員をバックアップ。

4/20 17:00

九州営業本部長をトップに
現地対策本部設立



情報一元化のため、九州営業本部長をトップに据え
被災地に現地対策本部を設立。社員の生活・業務
での情報集約、課題の抽出・対応にあたった。

4/25 20:00

総合試運転・水質検査に異常なし
熊本工場が再稼働



タンクの主要部品ロードセルの修復、調合ステージ
の修復を経て、本震災発生から9日後に工場再稼働。

2 初動対応を支えたBCP

リスクに強い会社を目指し、社会に貢献する

経験したことのない規模の地震に遭遇しながらも、冷静かつ迅速に行動できたのは、BCPが適正に機能したからでした。大規模災害に備えて策定していたBCP（2015年9月改訂）を熊本地震の経験を踏まえ、さらなる強化のための見直しを行っています。また、災害対応訓練を定期的実施し、危機意識の醸成にも努めています。



平常時の備えとして定期的に災害対応訓練を実施しています

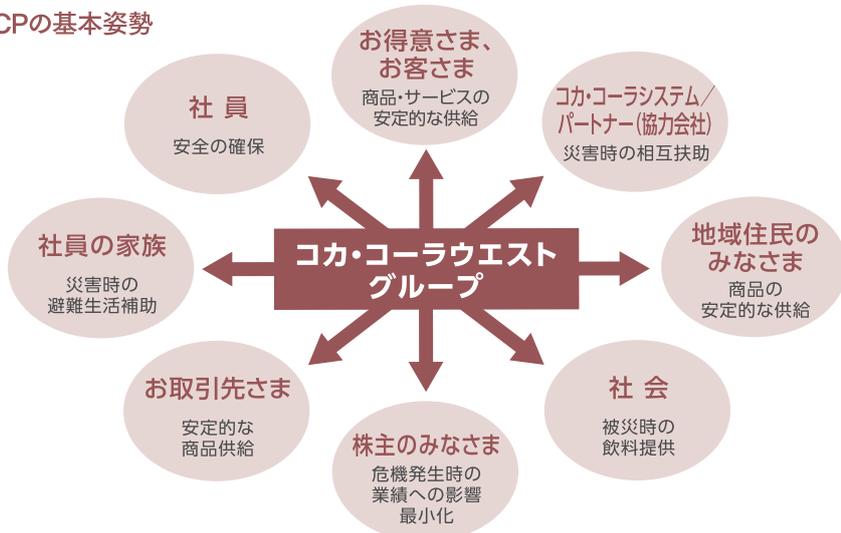
◎ BCPの基本姿勢

大規模災害が発生した際に、社員と家族を守り、非常時でもお客さまに確実に製品をお届けするためのBCPを策定しています。今回の地震では発生直後に「社員・家族安否確認・報告」のための対応がマニュアルに沿って実施されました。安否・被害状況の確認、復旧に向けての対応など迅速かつ適切に取り組みことができました。

◎ 実効性の高い詳細なマニュアル

大規模災害対応マニュアルには平常時の備えをはじめ、災害発生後の行動を初動対応（ステージ1）、事業復旧（ステージ2）、事業復旧（ステージ3）に分け、組織としての活動を細かく設定しています。これからもお客さまに製品をお届けするという清涼飲料メーカーとしての責務を果たすためリスクに強い会社を目指していきます。

● BCPの基本姿勢



● 大規模災害対応マニュアル

災害発生後の対応	平常時の備え ステージ0	平常時 ●避難場所の確認 ●緊急連絡体制の整備 ●各家庭での準備 ●基本行動の確認・周知 ●災害対応訓練の実施
	初動対応 ステージ1	発生から48時間以内 ●社員・家族安否確認・報告 ●施設・設備被害確認・報告 ●マーケット被害確認・報告 ●行政・地域支援要請確認 ●災害対策本部設置
	事業復旧 ステージ2	発生から2週間以内 ●行政・地域支援要請対応 ●販売・精算業務復旧 ●被災社員の支援 ●復旧へ向けて検討・実行 ●ココ・コーラシステム連携
	事業復旧 ステージ3	発生から1カ月以内 ●被災施設・設備の復旧 ●工場復旧後の生産計画 ●行政・地域の支援継続 ●ココ・コーラシステム連携

大規模災害に備えて防災用品を備えています

震災後、大規模災害への備えとして「折りたたみ式ヘルメット」や「マスク」を全社員に配布しました。また、帰宅困難者のための、「非常食」や「防寒・保温用の簡易毛布」などを各地域の拠点事業所に備えています。



BCP
担当者

ココ・コーラウエスト株式会社
CSV統括部 お客さま満足推進部
鶴山 勝也

早期の工場再稼働は、定期訓練のおかげでした

当社グループでは災害時に被害を最小限にとどめるために施設の設計ルールが定められています。また、毎年災害対策訓練に取り組んでいたおかげで全員の無事が確認でき、工場を早期稼働できました。



生産
責任者

ココ・コーラウエストプロダクツ株式会社
熊本工場長
澁谷 伸一

3 災害対応型自動販売機の効果

届いた、
私たちのところ

当社グループは多くの自治体と「災害時における飲料の提供協力に関する協定」を締結し、約2,850台の災害対応型自動販売機を設置しています。熊本地震の被災地域では34台が稼働しました。特に熊本県の甲佐町では、町職員の手で震災直後の早い段階に「非常時モード」が稼働され、支援物資が届くまでの応急措置として、災害対応型自動販売機の製品が提供されました。



甲佐町役場の職員が非常時モードに手で切り替え、製品が提供されました



地震直後の甲佐町
乙女地区津志田船津線
乙女橋付近の状況

◎ 地域の危機に備えていた「災害時協定」

安定して製品をお届けすることはもちろん、地域の安全に貢献することも使命のひとつと考えています。その一環として、2003年に熊本県上益城郡甲佐町と「災害時における

飲料の提供協力に関する協定」を締結し、町役場に2台の災害対応型自動販売機を設置していました。

◎ いち早く、清涼飲料を被災者の手へ

4月14日夜に発生した前震の後、町役場には地域の人たちが集まりはじめていました。翌15日の朝はまだ状況がわからず、支援も届かないなか、多くのみなさまが不安を抱えていました。そこで、町役場では職員が災害

対応型自動販売機の非常時モードを稼働。清涼飲料の無償提供を開始しました。混乱のなかで憩いのひとときを提供することができました。

○ 災害対応型自動販売機とは？

災害などでライフラインが被害を受けた場合に清涼飲料を無償で提供する自動販売機。



◎ 地域との連携による価値の提供

本格的な支援活動が実施される前の緊急措置として、災害対応型自動販売機の活躍は、「いつでもおいしさをお届けできる」価値に加え、「緊急時のライフラインとして役

立つ」価値を提供でき、大きな成果を上げました。また、地震に伴う断水が復旧するまで、身近にあった自動販売機が水分を補うためのライフラインとして機能を果たしました。

地域のみなさまの笑顔が励みになります

甲佐町の自動販売機に補充に行くのは、道路事情や余震で躊躇しましたが、製品をお届けしたい一心でハンドルを握りました。お客さまから頂いた「ありがとう」の声に使命感を感じました。

営業
担当者

コカ・コーラウエストベンディング株式会社
九州営業部 九州第三地区部 宇土支店
大村 修

町民の不安をやわらげることができました

災害対応型自動販売機にはとても助けられました。震災直後は飲食物が不足していたので、多くの支援物資を手配して頂き、町民の不安をやわらげることができました。

甲佐町

甲佐町役場
総務課長
内山 洋さま

4 復旧支援活動事例

さまざまな方たちとの協力の結果できたこと

地震発生直後から、自治体や自衛隊などたくさんの方々のご協力のもと、被災者のみなさまや社員へ支援を実施することができました。製品提供の支援や災害対応型自動販売機の設置など、これからもさまざまな形で地域支援を実施していきます。



災害協定に基づいて救援物資を提供

自治体への支援

災害対応型自動販売機の稼働

34台



製品提供本数

60万222本



被災事業所・社員支援

被災地社員への食料の提供

毎日 **600食** (10日間)



被災地への社員派遣人数

1,500人



被災地社員の健康相談の受診者

35人



◎ 清涼飲料の支援を実施

震災後、災害協定を結んでいる自治体を含む2県9市町村に、「森の水だより」「い・ろ・は・す」「綾鷹」「爽健美茶」「アクエリアス」などを提供してきました。総支援本数は60万222本、2万8163ケースにのぼっています。

また、災害後、指定避難場所などに設置している災害対応型自動販売機にある機内製品

を無償で開放しました。

自動販売機へ製品を補充するために熊本県外からも社員が駆け付け、いつでもお客さまの手元に製品が届くようにしました。身近にある自動販売機の存在に対して喜びの声が寄せられました。



自治体への製品提供

◎ 募金活動

コカ・コーラレッドスパークスラグビー部は熊本地震で被災された方々を支援するため、義援金募金活動を実施しました。活動で集まった51万884円は日本赤十字社へ寄付し、また、当社グループからの支援金約2,000万円も被災地へと届けられました。

※日本赤十字社に集まった義援金は被害状況に応じて按分され、各被災地に設置された義援金配分委員会を通じて被災されたみなさまに届きます



5 地域の未来へつながる一歩

今後も地域のために 継続していくこと

京都府の災害拠点病院と協同で防災訓練を開催し、「災害時における応急給水支援協定」を結びました。また、すべての事業所で地震を想定した防災訓練を実施しました。今後も大規模災害発生時のリスクを最小限に抑えるため、地元企業・行政と協同で災害に強い会社・地域づくりを目指します。



災害拠点病院と防災訓練を実施

◎ 災害拠点病院と協同での防災訓練

京都府の災害拠点病院である京都岡本記念病院は、2016年5月に当社京都工場近くに新築移転した病院であり、社会医療法人として「公益性の高い医療」「救急医療」「災害医療」にさらに力を注ぎたいという思いがありました。その思いにお応えするために、当社として

何か支援できることはないかと検討した結果、「防災訓練の協同開催」や「災害備蓄支援」「給水支援協定締結」をご提案させていただき実現に至りました。

2016年11月には震度6強の地震発生により病院施設で断水が発生したことを想定とし

た防災訓練を協同で実施しています。

また、防災訓練では、京都岡本記念病院と当社京都工場の2つの会場で連絡体制の確認や給水支援の作業工程・時間などをチェックして、給水支援の実効性を確認しています。



▲京都工場で汲み上げた地下水をローリータンクに入れる様子▲



▲ローリータンクの水を給水タンクに入れる様子

◎ 「給水支援協定」を締結し、有事の協力体制を確認

当社グループで初となる「災害時における応急給水支援協定」を2017年2月に京都岡本記念病院と締結しました。

大規模な地震が発生した際は、広い範囲で断水の被害が発生し、復旧までに多くのみなさまが不自由な生活を強いられることが

予想されます。

本協定の締結により、災害時における病院の安定稼働に協力することができ、地域社会に対しても大きく貢献できるものと考えております。



災害時には京都工場の地下水が生活用水として活かされます

コカ・コーラウエスト株式会社
リスク管理委員会
事務局

江藤 和彦



集約された情報をもとに、グループ各社・各部門が能動的に事業復旧へ向け、全力で対応して頂いた結果、事業復旧日安より早く製品を市場に提供することができました。

今回の事業復旧は社会的責任を果たすといった側面が多くを占めるものだったと思いますが、その目的に向かって突き進む一体感に、当社グループの強さを事務局として実感しました。

ただ、課題もありましたので、さらなるBCPの具現化を進めてまいります。



特集

1

森を守ることは 未来の水を守ること

私たちの事業に欠かせないのが「水」。このかけがえのない自然の恩恵があっこそ、清涼飲料水の製造・販売ができるのです。私たちが取り組む森林保全活動や水源涵養^{かんよう}についてご紹介します。

製品になる水と同じ量の 水資源を保護しています

当社グループで使用する水は、「製造に使用する水」と「製品になる水」の大きく2つに分類されます。「製造に使用する水」は、洗浄水や冷却水として使用後に回収・処理し、再度洗浄水や冷却水として循環利用して、適正に処理したうえで、自然界に放流しています。

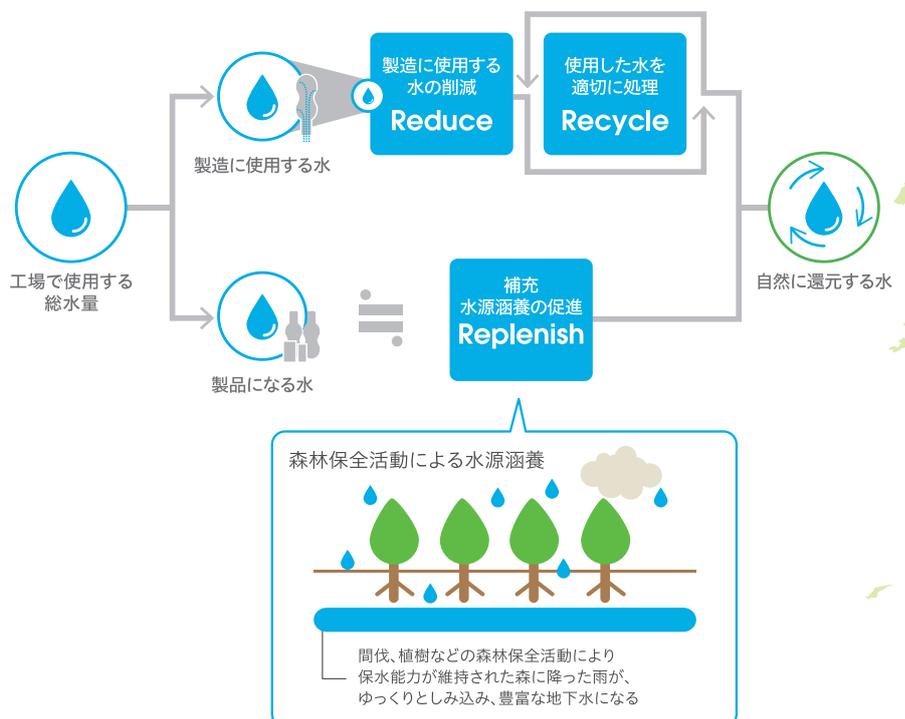
また、「製品になる水」は、森林保全活動などを通じて涵養能力を高め、豊富な地下水を育むことで自然界へ還元しています。

2014年には、1年間に「製品になる水」と同等量の地下水を育むために必要な水源涵養面積に対して、当社と自治体等による森の協働管理契約面積の合計が100%を達成しました。現在は各工場単位での100%達成を目指しています。

●水資源管理

Water Neutrality(ウォーター・ニュートラリティ)イメージ図

コカ・コーラシステムでは原料として使用した分と同量の水を森林保全活動などで還元し、水の使用量を実質ゼロにする取り組みを行っています。



社員も参加して森林を守っています ～さわやか自然の森～

各工場の水源地となる森林を「さわやか自然の森」と名付け、各自治体と協働管理協定を結んで森林保全活動を進めています。この「さわやか自然の森」は西日本エリアに9ヵ所あり、水源涵養面積は約2,200haになります。

●2016年の活動



「きょうと さわやか自然の森」での森林保全活動



レクチャーを受けて作業開始



枝打ち



植樹



下草刈り

自然の恵みを体感する 貴重な機会です

かけがえない「水」を利用して事業活動を行う企業として、水源涵養に取り組んでいます。

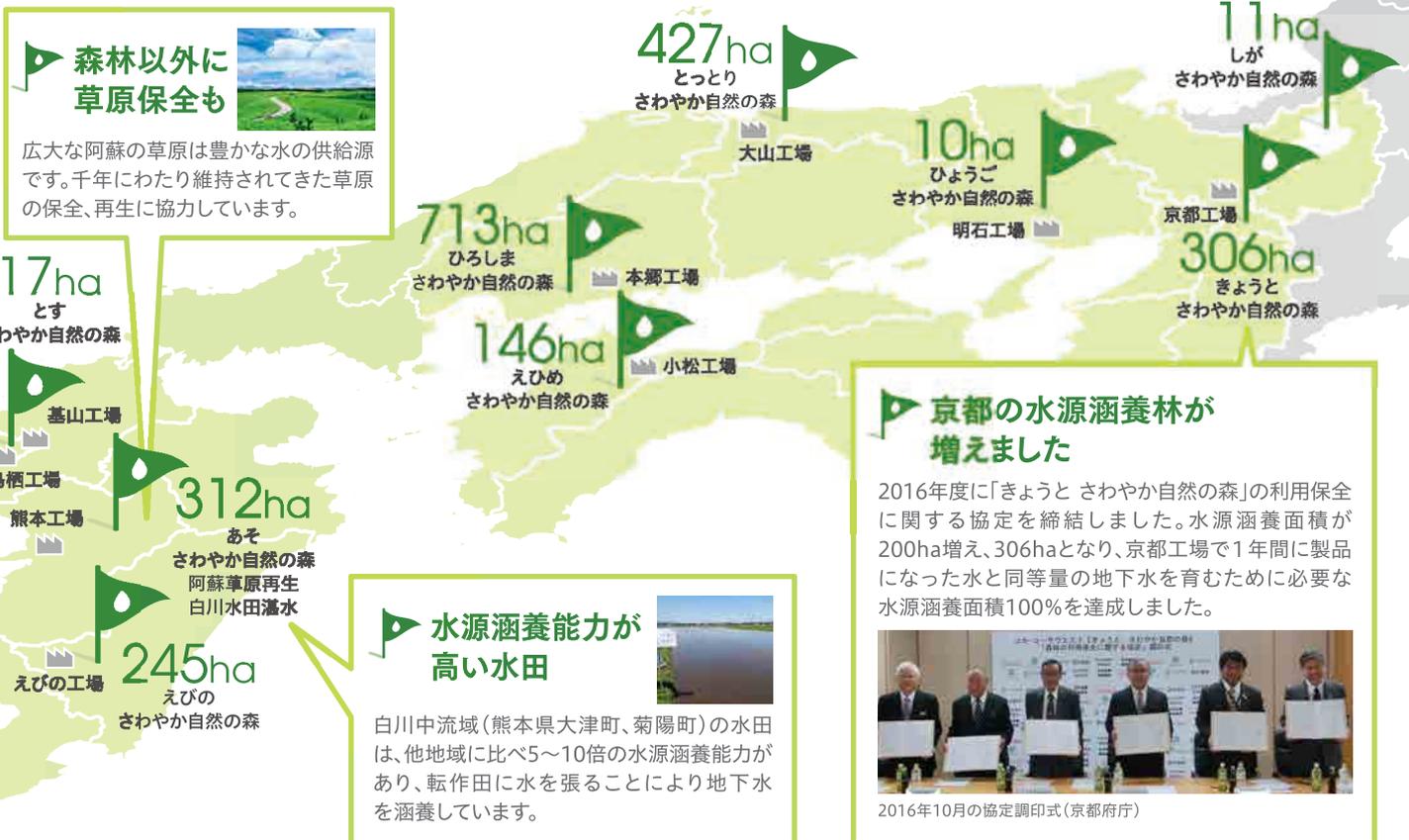
なかでも水源涵養林の保全活動は9工場すべての水源地で実施している活動です。また、自治体や森林組合にご協力頂きグループ社員参加型プログラムを行っており、社員とその家族および地域のみなさま490人が参加しました。

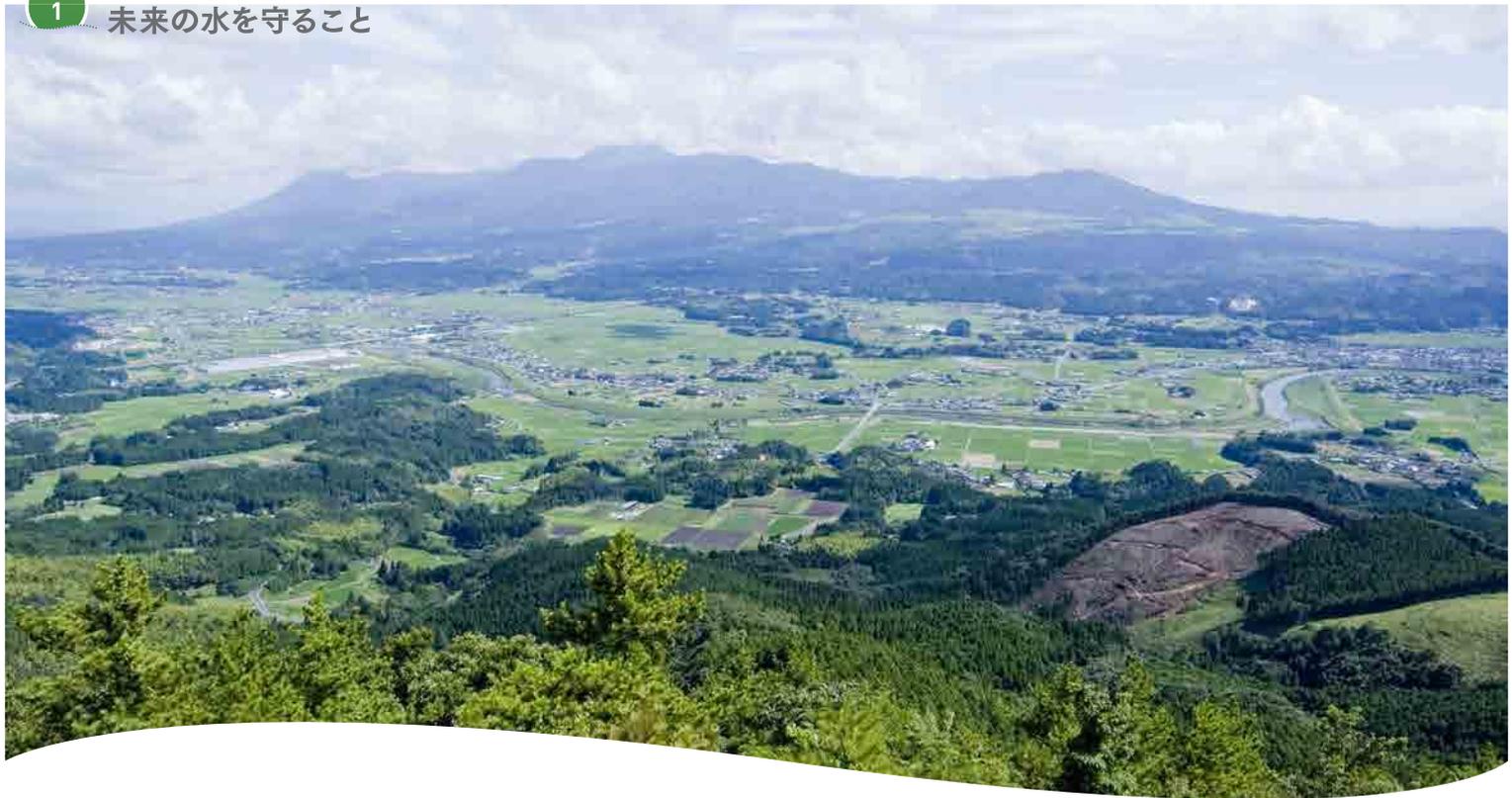
この活動は、水源涵養への理解を深めるため、水や自然の恩恵を体感する絶好の機会となっています。次世代へ豊かな水資源を引き継ぐために今後も活動を継続し、持続可能な社会の発展に貢献していきたいと考えています。



コカ・コーラウエスト株式会社
CSV統括部 広報・社会貢献部
坂田 康

●工場別水源涵養面積





SPECIAL TOPICS

地域とともに、森と水をはぐくむ — 宮崎県えびの市

森林を守るためには、多くの人の協力が必要です。

今回はえびの工場の採水地、宮崎県えびの市の「えびの さわやか自然の森」での活動をご紹介します。

水の恩恵を受ける企業として

私たちの事業に水は欠かせないもの。しかし水資源には限りがあります。そこで製品をつくるために、使用する量と同等量の水を自然界に還元する「Water Neutrality」という取り組みを実践しています。また大切な水を未来に残したいと考えている当社グループは工場のあるえびの市で森林の保全活動に取り組んでいます。



えびの工場



えびの工場
えびの
さわやか自然の森
西諸地区
森林組合

未来に森を残すために

えびのの森林を管理しているのは西諸地区森林組合。現場で働く人の平均年齢は約55歳と、後継者不足も深刻な問題です。森の中での作業は気力と体力が必要なので、慣れていない若者は音を上げるそうです。森に親しみを感じ、若者にもっと環境保全を意識してもらおうことが今後の課題です。



西諸地区森林組合

宮崎県えびの市

同市にあるえびの工場付近には、「えびの さわやか自然の森」があり、ゆたかな水源を守っています。

力を合わせて森を残すこと

コカ・コーラウエストと西諸地区森林組合が協働で森林の保全活動を行うことになったのは今から約9年前です。それ以来ワークショップなどを通じて、地域の人に森を知り、森を守り、そして水を守るきっかけを提供しています。

西諸地区森林組合の平組合長は「コカ・コーラウエストさんといっしょに実施している下草刈りや伐採などの活動は、地域のみなさまが森の大切さ、素晴らしさを知る良いきっかけになっています」と話します。管理する人がいることで、森や水は私たちに恵みをもたらしてくれます。「子どもたちに豊かな自然を残したい」という思いとともに、活動を続けていきます。

い・ろ・は・す水源保全プロジェクト

えびの市をはじめ全国各地の「い・ろ・は・す」の6つの水源やその他の水源で、森林保全活動に取り組んでいます。当社グループでは「い・ろ・は・す」の売り上げの一部を寄付することで、水源の保全に協力しています。



西諸地区森林組合 活動紹介



きれいな水をはぐくむ
「森の番人」の一日とは

西諸地区森林組合のみなさんは朝8時から夕方5時まで森林の中で過ごしています。健全な森林づくりのためには毎日の整備が欠かせません。苗木の植え付けや不要な樹種・雑草の除去はもちろん、日光が当たりやすくなるよう、下草刈りや間伐をするなどさまざまな活動に力をいれています。これをおこたると、木々に元気がなくなり、水源涵養機能も下がってしまうのです。良質な水源や美しい森林を残すために「森の番人」たちは、今日もはたらきます。



左から西諸地区森林組合 参事 長倉 敏幸さま、同組合 代表理事組合長 平 奈緒美さま、同組合 事業二課 技師 野村 英樹さま



間伐で森に光を届けます



下草刈りで地面に太陽光を当たりやすくします



枝打ちで成長に不要な枝を切り落とします



「えびのさわやか自然の森」を舞台に、社員の家族や地域の方々とともに植樹や枝打ち、下草刈りなど森林保全への理解を深める活動を続けています。

えびのの森林を残したい

コカ・コーラウエストさんには、春先の植樹活動、作業道の開設などさまざまな面でサポートをして頂いています。いっしょに植えた木も元気に成長しており、水土保持・水資源の涵養に役立っています。

また、このような活動のほか、さまざまなワークショップ事業を実施しています。最近では、世代が変わるにつれて、森林保全への意識が下がっていると感じます。これまでは子や孫のために山を守ることが常識でした。しかし、今では負担を除くために処分してほしいと言われてしまいます。コカ・コーラウエストさんが若い世代に、森林保護の大切さを教える機会を提供してくださることは大変嬉しいことです。



西諸地区森林組合
代表理事組合長
平 奈緒美 さま

地域が一体となって未来へとつなぐ

日ごろから森林保全活動で協力頂く関係各所と密なコミュニケーションをとっているため、森林の維持管理状況の確認や保全活動の連携がとてもスムーズです。また、たくさんの方々に参加して頂き、地域が一体となった森林保全活動が続けられています。私たちの支援が林業の発展にもつながるとの声を頂いており、大変嬉しく感じています。

私たちコカ・コーラウエストグループは豊かな水資源を守り、地域の自然を未来へしっかりとつないでいきます。ぜひみなさまもいっしょに地域の森林保全に取り組んでいきましょう。

コカ・コーラウエスト株式会社
CSV統括部 広報・社会貢献部
グリーンパークえびの 駐在
藤久保 敦士





特集

2

地域のHAPPYを広げる

カンパニースポーツである「ラグビー」と「ホッケー」の活動を通じて、「会社」と「地域社会」に「活力」や「感動」「喜び」をもたらすべく、明るい話題を提供し続けるチームでありたいと考えています。

そのためファンのみならず地域の方々から愛されるチームを目指し、選手が社会人として仕事とスポーツを両立する日々の姿や社会貢献活動への真摯な取り組みにより、活力ある企業へ前進していきます。

また試合を通して多くの方々に感動をお届けするのはもちろん、直接ふれあえる一つひとつの場を大切に、未来ある子どもたちの心身の健全な育成や、地域活動への参加により、活気ある地域社会の実現に貢献していきます。



笹丘少年ラグビークラブ
勢川 華奈さん(6年生)

子ども記者が行く

レッドスパークスの活躍に密着!

2017年1月14日(土)に開催されたジャパンラグビートップリーグ最終節

レッドスパークス vs リコーブラックラムズ戦では、ラグビー大好きな勢川さん3姉弟が試合に密着!

子ども記者として憧れのラグビー選手に質問するなどラグビーの魅力取材してくれました。



笹丘少年ラグビークラブ
勢川 真洋くん(1年生)



12:20

選手たちをお出迎え

会場入りの桑水流選手と築城選手にご挨拶。「頑張ってください!」とエールを送ります。



14:00

いよいよ試合開始!

エスコートキッズといっしょに入場する選手たち。観客席からの声援、届くかな?



14:40

楽しいハーフタイム

スパークーが客席へプレゼントをスローイン。狙うは選手たちのサイン入りボールだ!

RUGBY



コカ・コーラ レッドスパークス

1966年に日米コカ・コーラボトリングラグビー部として創部。2005年にトップリーグに昇格し、2016年に創部50周年を迎えた伝統あるチームです。



コカ・コーラレッドスパークスラグビー部
オリジナルキャラクター/スパークー

地域の方々とスクラムを組み
未来へ向かって前進!

日本を代表するトッププレイヤーが集まるレッドスパークスラグビー部のモットーは「よきラグーマンの前に、よき社会人たれ」。

キャプテンの山下 昂大選手は「試合はもちろんですが、グラウンド外でも多くの方に応援して頂けるよう、一人前の社会人として自立するという考えを持って活動しています」と語る。

全国各地でジャパンラグビートップリーグを戦うほか、2016年はラグビークリニックやタグラグビー教室などの交流会を21回開催しました。また、各地のイベントに参加するなど、地域との交流の場を広げています。



キャプテンから



2017年も、いっしょに
戦いましょう。

みなさまが応援に来てくださると、選手たちのモチベーションがぐんと上がります。ぜひ観客席から声を掛けてください。

山下 昂大 選手

リオデジャネイロオリンピック出場報告

実力を100%発揮できました

初戦のニュージーランド戦でいいスタートを切れたことが好成績に結びつきました。チーム全員が実力を全て出し切り、楽しくプレーできました。きちんと準備を徹底すれば結果は必ずついてくると確信しました。

リオデジャネイロオリンピック 男子ラグビー日本代表 キャプテン 桑水流 裕策 選手



笹丘少年ラグビークラブ
勢川 洋人くん(5年生)



15:45

試合後に選手たちと交流

色紙やボールにサインをもらい、みんなで記念撮影。質問にもやさしく答えてくれました。

選手に
質問しました!

Q1. どうやったらおおきになれるの?

⇒大切なのは規則正しい生活とバランスの良い食事です。毎日だいたい同じ時間に起床・食事・就寝して、ご飯・主食(肉や魚)・生野菜をバランス良く摂取しています。

Q3. 遠くまでキックをするコツは?

⇒まず、蹴る方向を定めて、ボールをしっかりと見ることが大切です。ボールを落とすときはギリギリまで持ち、蹴る瞬間に体を反らないこと、蹴った後は足を最後まで振ることがポイントです。

Q2. 普段は何をしているの?

⇒スーツを着て、自動販売機を置いてもらうためにたくさんの人に会ってお話をしています。ラグビーの指導や、ラグビーをもっと知ってもらうための活動もしています。

Q4. ラグビーをしていて良かったことは?

⇒自信がついたことと、仲間が増えたことです。困難を乗り越えて目標を達成し、仲間と喜びを分かちあえる経験はとても貴重なものです。仲間とのつながりはかけがえのない財産です。





コカ・コーラウエスト レッドスパークス

1996年に山陽コカ・コーラボトリングホッケー部として創部。ホッケー日本リーグに所属しており、日本代表を有する日本トップレベルのチームです。



コカ・コーラウエスト
レッドスパークス ホッケー部
オリジナルキャラクター/スパークウィーン

ホッケーの楽しさを日本全国へ 地域の人々の笑顔が原動力

「良き社会人・良き企業人・良きアスリート」これがレッドスパークスホッケー部のモットーです。チームの雰囲気はとても和やかで、「みんなにぎやかでよく笑います。地域の人々と交流できるホッケー教室やイベント参加もとても楽しみにしています。」とキャプテンの新井選手は語ります。

2016/リオデジャネイロオリンピックに5人が選出された国内トップクラスの選手が集まるレッドスパークス。2016年は決して満足のいく結果を残すことができませんでしたが、反面、実りの多かった年でもありました。2017年はこの実りを糧に日々前進し、さらに地域の人々を笑顔にしていきます。



キャプテンから



新たな飛躍に向けて一致団結

思うような成績が残せなかった昨シーズン。悔しい結果はこの先飛躍するために必要な経験だったと、前向きに受けとめています。チームとして成長した面もたくさんあります。これからも前進あるのみ。四冠奪取が目標です。

新井 麻月 選手



リオデジャネイロオリンピック 出場報告



自分を鍛えてまた挑戦したい

悔しさをバネに強くなる

精神面にプラスの変化が

試合を想定した練習を



西村 綾加 選手

世界の強豪は本番に強い。自分のプレーの幅を広げる必要があると実感しました。練習してきたことはもちろん、練習以上のパフォーマンスを発揮できるようになるにはメンタルも重要なので、しっかりと鍛えています。



錦織 えみ 選手

オリンピックという大きな舞台を経験したことで、自分に余裕が持てるようになりました。しかし世界とのレベルの差は歴然。実力不足を痛感する悔しさもありました。どんな相手でも負けないディフェンスを目指します。



湯田 葉月 選手

ボランティアの方が優しく陽気だったので、選手村では楽しく過ごせました。そのおかげで試合では全力を尽くすことができました。私の中ではオリンピック前よりも負けず嫌いになり、覚悟が決まったことで責任感が強くなったと感じています。



三橋 亜記 選手

シャワーからお湯が出なくなったり、数時間断水したりするなど選手村では予想外のハプニングがありましたが、これでもいい思い出になりました。今後は試合をイメージしながら練習に励み、波のないプレーヤーになることが目標です。



地域密着型のチームを目指して

レッドスパークスは地域のみなさまにスポーツの楽しさを伝えるとともに、スポーツクリニックやイベントへの参加を通して地域に貢献していきます。

地域のためにできること

「体を動かす」機会の創出

活動的で健康的な生活習慣づくりを支援するために、スポーツに親しむさまざまな機会を提供しています。

技術力向上、安全性の高い指導教育

小学生から大学生まで、習熟度に応じた指導を行っています。また選手だけではなく指導者を交え、多岐にわたるクリニックを開催することで競技の安全性、精度の高いプレーを伝えています。

RUGBY ラグビー

健康的な生活習慣を提案



全国各地で幼児から成人まで幅広い層を対象にラグビークリニックやタグラグビー教室、水分補給セミナーなどを開催し、ラグビーを通じて健康的なライフスタイルの提案などを行いました。2016年は計21回開催しました。

地域活動に参加

地域社会貢献活動の一環として、清掃活動をはじめ地域で行われる活動に参加しています。毎年年末に福岡市内の商業施設でお客さまといっしょにもちつきを行ったり、ラグビーに興味を持ってもらえるような各種イベントへ参加しました。



〈みなさまとのふれあいを大切にしたい〉



ラグビーをご存知ない方々が、楯円球に触れて楽しそうに動いている姿を見るととてもうれしく思います。もっとたくさんの方に知って頂けるように、コカ・コーラにしかできないみなさまとのふれあいを続けていきたいです。

ラグビー部 キャプテン 山下 昂大 選手

HOCKEY ホッケー

ホッケーの楽しさを伝えたい



小・中・高校生を対象にホッケーの魅力伝える「ホッケー教室」と技術指導が中心の「クリニック」。みんなで体を動かし、スティックの扱い方から始め、ホッケーの楽しさを伝えています。2016年は計9回開催しました。

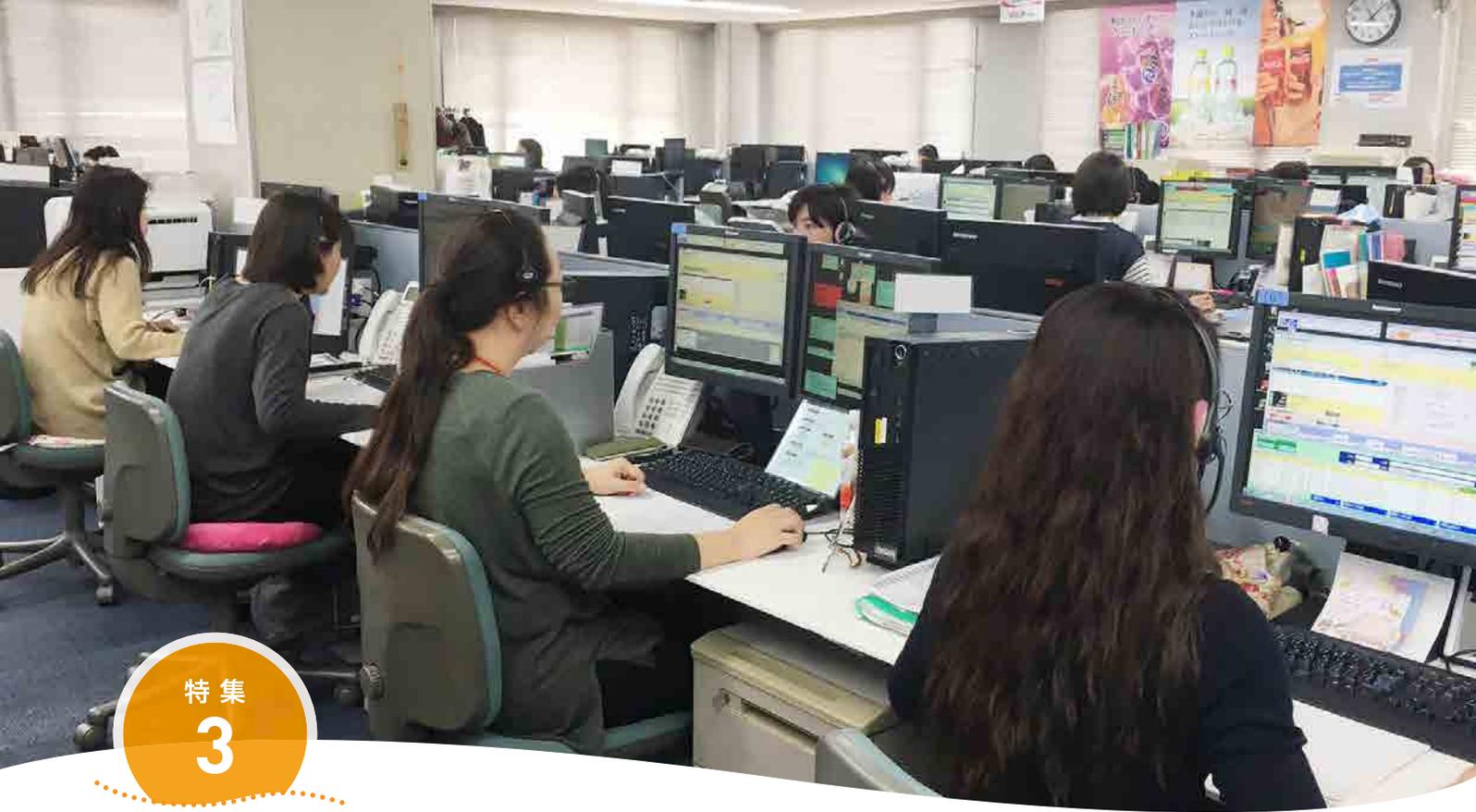
地域の人々と交流

2016年は「ひろしまフラワーフェスティバル」イベントブースの出展や「ひろしま国際平和マラソン」ゲストランナーとして参加するなど計5回の地域イベントに参加しました。地域のみなさまとの交流を通じて、ハッピーをお届けします。



ホッケー教室など、さまざまな場面で温かいお言葉で励ましてくださり、選手一人ひとりが地域のみなさまと交流する大切さを感じています。選手の魅力が伝わり、親近感のあるチームづくりに取り組んでいます。

ホッケー部 キャプテン 新井 麻月 選手



特集

3

お客様の期待に応えるために

コンタクトセンターの取り組み

毎日たくさん寄せられるお客さまからのご意見・ご要望には、さらに品質の高い商品をお届けするためのヒントがたくさんあります。その声をしっかりと聴いて関係部門と共有し、改善していく部門のみなさんに密着しました。

お客様の声を「聴く」

当社グループでは、多くのお客さまから手紙、はがき、メールなどさまざまなご意見・ご要望を頂いています。なかでも大半は電話で、年間12万件もの声が寄せられています。

そうしたご意見・ご要望を直接伺うの

は、西日本にあるコンタクトセンターです。当社事業エリアでは、さまざまな地域特性があり、頂く声もさまざまです。

電話をお受けするコミュニケーターは、顔が見えない分、「傾聴」を心がけ、電話

対応の品質向上に日々取り組んでいます。

商品の知識はもちろんのこと、お客さまのお気持ちを「くみ取る力」も要求される仕事です。

迅速に「対応する」ために

ご意見・ご要望を受け、お客さまと直接お会いする必要がある場合は、その内容を速やかに地域担当者へ伝えていきます。

コンタクトセンターから地域担当者へ、ご意見の内容や発生場所等を正確に通達できるシステムを採用し、迅速な対応ができるよう体制を構築しています。

コンタクトセンターが中心的な役割を担い、グループ全体が一丸となり、真摯に対応しています。

頂いたご意見は、すべて集約し、経営層を含め、グループ全体で共有していくことで、品質向上を図っています。



コンタクトセンターでの研修の取り組み

新任リーダー研修、フィードバック、コーチング研修など、コミュニケーターの「対応品質」を高めるための研修を、年間でスケジュール化して、実施しています。



「1社体制のような対応」を実現する

日本には、コカ・コーラウエストをはじめとする製品の製造・販売を行うボトラー社があり、それぞれのボトラー社が連携してお客さま対応を行っています。さらに、日本コカ・コーラ(株)お客様相談室でも日々多くのお問い合わせを頂いております。

お客さまが、全国どこへ問い合わせても、同様の対応ができるように努めています。また、日本コカ・コーラ(株)や各ボトラー

社のお客さま対応担当者が集まる会議を定期的実施して、より高品質な商品、サービスをお客さまへお届けできるよう、意見を出し合っています。

日本コカ・コーラ(株)お客様相談室との連携に努めています

コカ・コーラウエスト株式会社
CSV統括部 お客様満足推進部

南里 和弘



お客さまの期待に応えられる会社づくりを目指しています

改善ができていないか「監査を行う」

お客さま満足を向上させるためのご指摘対応プロセスがコンタクトセンターをはじめ担当事業所に備わっているかを確認するため、内部監査を行っています。

なお、当社グループのご指摘対応プロセスおよびご指摘対応プロセスの関連文書は、ISO10002に適合した内容であると外部機関より第三者の立場から評価を得ています。

すべては「お客さま起点」

コンタクトセンターには、ベテランコミュニケーターが多く在籍しており、長い間お客さまと私たちをつないできた対応品質は、当社グループの財産だと考えています。

「お客さま起点」が私たちの合言葉。改善

点がなくなることはありません。各部門や事業所、そしてグループが一丸となって課題を解決することで、お客さまとともに「共創価値」を生み出し続けたいと考えています。

ISO10002とは

ISO10002とは、顧客満足に関する国際規格で、顧客からの苦情を顧客重視・消費者保護を第一に考えて適切に、迅速に対応する「顧客満足マネジメントシステム」導入にまつわる指針を示しています。対応プロセスを通して得られた情報を製品やサービスの改善につなげ、お客さまに信頼を与えられることを目的としています。

ISO10002の枠組みを用いてお客さま満足の向上を目指しています

コカ・コーラウエスト株式会社
CSV統括部 お客様満足推進部

松本 もも子



全国大会5位!

対応コンクール受賞者に聞く『声で支えるコカ・コーラ』

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会が主催する「第55回 電話対応コンクール全国大会」13,703人の参加者から勝ち抜き、全国5位に入賞した黒田真知子さんにお話を聞きました。

今回の出場で新しい感覚が生まれました。

北海道から沖縄まで電話対応のプロが集結した全国大会は、3分間のデモンストレーションを審査員が評価します。3年前から挑戦し続けてきた大会で、3回目のエントリーとなる2016年は大阪のNHKホールで開催されました。1,400人が入る観客席は満員です。緊張のあまり1カ所、敬語を間違っていました。それでも、5位に入賞できたのは「一生懸命さ」だと言って頂きました。審査委員長いわく「大切なのは流暢さと誠実さのバランス」。よどみなくすらすらと話すだけでなく、そこに気持ちがこもっていないと相手に伝わらない。そのことを学んだチャレンジでした。

やりがいは感謝のキャッチボールができること。

コンタクトセンターにかかる電話の多くは、自動販売機で商品が出てこないなどのトラブルが起きたときです。お客さまが慌てている状況で、詳しく話を聴いて解決したり、今後の対応をご案内したりしています。手際良くご説明することは相手に安心して頂ける一方で、あまりに事務的だと気持ちが伝わっていません。AI(人工知能)の登場によって、コミュニケーターの仕事は「10年後にはなくなる」とも言われていますが「誠実さ」は人間でなければ出せない部分です。私が解釈する「誠実さ」は感謝をしっかりと、具体的に伝えること。それが伝わるとお客さまからも「ありがとう」と言って頂けるんです。

結果を出すには練習あるのみ。一人では練習ができませんが、仕事の合間をぬってお客さま役として練習に付き合ってくださったチームのみなさんのおかげです。



コカ・コーラウエスト
セールスサポート株式会社
大阪コンタクトセンター
黒田 真知子

これからの夢、目標

お客さまが焦っている状態で、うまく説明できないときでも「つまり、こういうことですね」とお伝えすると「そうそう!それが言いたかったの」と言ってもらえ「つながった」と感じるんです。コミュニケーションのプロとして、この言葉をもっと増やしていきたいですね。

Coca-Cola West

コカ・コーラウエスト
プロダクツ株式会社
基山工場 管理課
元松 千恵美

コカ・コーラウエスト
プロダクツ株式会社
基山工場 製造一課
白谷 愛子

コカ・コーラウエスト
プロダクツ株式会社
鳥栖工場 管理課
谷口 明子

特集
4

もっと女性がHAPPYに働くために

ダイバーシティの取り組み

女性も働きやすい職場環境を目指そう——。

工場で働く8人の女性社員が中心となり始まった「もっとHAPPYにはたらコカ!」プロジェクト、通称、「HAHAコカ!」。

どのようにして会社を変えたのか。1年を通して見えてきたものとは。

プロジェクトの核となった3人の社員に聞いてみました。

自分たちの「普通」を疑うことから プロジェクトが始まった。

谷口 プロジェクトが立ち上がったのは2016年の5月でした。2015年8月に成立した「女性活躍推進法」も追い風になり、会社全体が「女性が働くこと」について意識するようになったと思います。

元松 コカ・コーラウエストは、正社員約7,300人のうち、女性社員は700人でしょう。それこそ工場ができた当初は男性のみだったから、全部が男性主体なんですよ。トイレにしても工場機器にしても女性が使うことを考えられていないものが多くて。

白谷 でも、今まではそれが「普通」だったんです。ずっとそんな環境で働いていたから、違和感がなかったんですよ。

谷口 そうですね。今回、このプロジェクトを始める際にまずは全女性社員にアンケート

をとったんです。予想以上に意見がたくさん出てきてびっくりしました。

白谷 みんな、言わないだけで「こうしてほしい」「ああしてほしい」という気持ちをたくさん抱えていたんですよ。

谷口 「変えたいところはありますか」と言われて初めて、そのことに気づいたという感じがしました。

元松 「言っても変わらないんじゃないか」という気持ちも正直あったと思います。長年ずっとこのままでやってきたのに、私たちの声だけで変わるのかなって。

声に出すことで理解が生まれ 男性社員の意識が変わった!

谷口 そこで、アンケートを元に「制度」「意識」「職場環境」の3つのチームにわかれて改善できないかを考えました。すぐに変わったのは「職場環境」でしたね。

「こうしてほしい」という気持ちは
実はみんなが抱えていたんです。



元松 製品を詰めたあとの箱って、10kg近くあるんですよ。でもそれを抱えて別のレーンに持っていかないといけない。女性にはかなりの労力なんです。そこで、箱をちょっと押せば流せるようにレーンに別でつけたら、すごく便利で!

谷口 私たちが楽になったのはもちろんですが、男性社員も箱を抱える手間が省けて、結果的に効率化につながったんですよ。

元松 工場の話でいくと、工具類のハンド

3つのチームにわかれて
改善案を考えていきました。



ブックもみんなで制作しました。

白谷 工具って、女性はほとんど扱わないですもんね。使い方とか名称とか覚えるのが結構大変だから、これが1冊あるだけで新しく入社する人も助かるはず。

元松 みんなで「こうしたら分かりやすい」とか言いながら、楽しくつくりましたね。あとは、トイレにプライベートボックスが設置されたのも大きな変化だったかな。

谷口 工場の中には私物の持ち込みが禁止されているけど、女性は何かと持ち物が多いですからね。工場内のトイレに置いておけるのは、とてもありがたいことです。

元松 これも「こんなの欲しい!」と口にして初めて、男性陣が「そうだったんだね。分からなかった」と言っていました。決して「女性を尊重しない」とか思っているわけじゃなくて、気づかなかっただけなんだなって、改めて実感しました。

白谷 「制度」はやっぱり子育てに関する要望が大多数でした。「託児所があるとうれしい」とか「子どもが熱を出したときに有休を使えるようにしたい」とか。

谷口 いま子育て中の方はもちろん、独身の女性から「これから結婚をして子どもを産むと考えたときに制度がないと不安だ」という声がたくさんあがりました。たとえば子育て中の人は日勤だけにしてもらえると、時間有休が使えるとか、しばらくは交替勤務から外してもらえると、さまざまな案が出ました。

元松 でも、実行にうつすととなかなか一筋縄ではいかない。

谷口 子育て中の人だけを優遇してしまうと、我慢しなければならぬ人も出てきますから。でもそうになったら意味がない。「HAHAコカ!」は女性だけではなく全員が幸せに働ける会社づくりが目標なんです。

白谷 全社員に勤務体制の希望をアンケートでとってみると「夜勤をたくさんしたい」という人もいるから、良いバランスのとり方は必ずあるはずですよ。

谷口 実現に向けてシミュレーションを重ねていこうと思っています。

私たちが楽になるのはもちろん、
全体の作業の効率化にもなりました。



誰もが自分の力量で評価されたい。
「女性推進」がなくなる会社
を目指して…

白谷 プロジェクト立ち上げから、もう1年でですね。

元松 男性からも改善案が出てくるようになりました。みんなの意識が少しずつ変わったことでコミュニケーション力もあがった気がします。

白谷 確かに。みんな、「改善できるところはないかな」という目線を常に持って何事も見るようになったと思います。でも「女性推進」ってやたら言われすぎるとプレッシャーなんですよ。

谷口 そこがプロジェクトで最も意識していないといけない部分だと思います。

元松 プロジェクトは女性を優遇するためのものではないんです。「女性が働きやすい会社」をつきつめていくと「全社員が楽しく働ける会社」になるんだと思う。

谷口 アンケートの中にも「過剰な気遣いをされたくない」という意見がありました。みんな自分の力量で評価されたい。それは男性も女性も同じ気持ちです。やがて「女性活躍」という言葉自体がなくなることが理想です。みんなが活躍できる会社を目指して、これからもプロジェクトを動かしていきたいと思えます。

それぞれのエリアで活動中!

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社
代表取締役社長

森本 一弘



2016年5月に立ち上がったこのプロジェクトのおかげで、着実に会社全体の意識が変わりつつあると感じています。女性が働きやすい職場は必ず男性にとっても働きやすい!今回のプロジェクトをきっかけにし、すべての人たちがHAPPYに働き続けることができる会社づくりに、これからも積極的に取り組んでいきます。



HAHAコカ!で目指すのは…
全社員が笑顔で働ける企業



※HAHAコカの
ロゴも女性社員
が考えました

もっとHAPPYに はたらコカ! プロジェクト

- 取り組み事例 -

女性社員が主体となって
仕組みづくりを考える

「HAHAコカ!」プロジェクト。

主にこんなことを検討し、活動してきました。



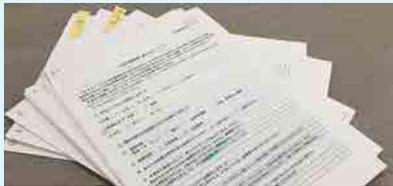
「意識」チーム

女性社員を対象にしたアンケート結果から、性質が似たグループ会社の状況を把握し、コラボレーションによる合同イベントを開くことで意見交換会の開催に成功しています。また、会社全体の意識も変わり会議に女性が積極的に参加するようにもなりました。全社員の仕事に向き合う姿勢にも変化が見られます。



「制度」チーム

育児や介護などで制約のある社員に対して会社の方針を明確化してもらえるように提言。子育ては女性だけの問題ではありません。男性の育児支援制度の利用価値や意識が深まるような働きかけも、今後検討しています。また、子育て中の社員は夜勤が難しいため、どうすればバランスの良いシフトが組めるのかを思考中です。



「職場環境」チーム

これまで男性だけの「3K職場」。「女性用プライベートボックスを設置」「和式から洋式へ変更」「除菌クリーナーを完備」といったトイレ設備をまずは改善しました。また、工場で使う保護マスクは男女兼用でしたが、要望を伝えた結果、現在は個人に専用マスクが支給されています。工場のラインも働きやすくなりました。



安全性が
高まる



品質の向上に
つながる



生産性アップ!



男性からこんな意見が・・・

工場ラインの改善は男性社員の提案によるもの。ほかにも「こんなふうにしたらいのではないかと」積極的な意見が出るようになりました。改善後は「自分たちも働きやすくなった」との声がたくさん出ています。

職場が変わると男性も変わった

日常会話の中で「こんなところも変えられそう」という発言が聞こえるようになってきました。これまでは「本当に必要?」と言われることもありましたが、いざ変えてみると反応は上々。みんなの笑顔も増えました。

コカ・コーラウエストグループ 女性の活躍推進のための取り組み

ダイバーシティ(多様性)の属性の一つである女性の活躍を推進し、社内のあらゆる場面で女性が活躍し、事業活動全般に多様な価値観・視点が反映されていることを目指します。

マネジメント力向上研修

管理職候補の女性社員が、マネジメントの基礎を学びキャリアアップを目指す研修です。

上長を対象とした研修

多様性尊重と人材マネジメントについて所属員の指導・育成に活かせる研修を実施しています。

新卒女性の営業職への配置促進

若い頃からお客さま起点の行動と経験を積み、営業戦略に女性の視点を反映していくことを目指しています。

会社別の女性活躍推進に関する取り組み

女性営業職が、女性ならではの悩みや仕事の壁などを共有する「女性営業職情報交換会」や「HAHAコカ!」プロジェクトなど、会社別に課題を解決する取り組みを実施しています。

女性リーダー育成プログラム

所属長によるOJTを基本とした3カ年の育成プログラム。女性リーダー職を目指します。

女性社員の活躍事例の周知

社内報およびグループポータルサイトに当社グループで活躍する女性を紹介し、女性の活躍を推進する意識の醸成を図ります。



女性リーダー育成プログラム1期生終了
現在、約80人の女性社員が参加しており、2016年11月、当プログラム1期生20人が3年間のプログラムを修了しました。

ダイバーシティ担当からひと言!

多様な価値観が融合し、イノベーションを生み出すダイバーシティ経営の実現は非常に重要です。そしてダイバーシティの鍵を握るのは、モチベーション高く働く女性達!と思います。OJTを主体とした次世代リーダー育成プログラムでは、自身の課題に真摯に取り組みステップアップする女性社員が誕生しています。今後さらにさまざまな視点を経営に活かしていくためにも、性差なく誰もが最大限に力を発揮できる職場づくりを目指していきます。

コカ・コーラウエスト株式会社
人事厚生部
女性活躍推進担当

石井 まり美



ダイバーシティの取り組み

実際のところ、 どう働いている?

- 働くママ社員の今 -

男性社員ばかりですが、みんなのおかげで働いています。

突然の息子の発熱。何度測っても体温計は「38℃」。ああ、今日も会社を休まなくては……。そんなことがこれまで数えきれないほどありました。でもそのたびに仲間に救われるんです。「今日のお客さま訪問は変わっておくよ」「あまり無理しないようにね」と温かい言葉をいつもくれる男性社員。そう、私の職場には男性ばかりなんです。よく「男性は子育てに理解を示さない」なんて言いますが、そんなことはありません。私のまわりにいる方々はみんなとても協力的です。かと言って「子どもがいるから仕方ないよ」なんて言わず、私を一人の「働く仲間」として同等にあつかってくれるので気負うことなく働けます。

仕事も生活も充実しているのは子どもがいるからこそ。

いまは2人の息子を育てながら働いています。1人目を生んで職場に復帰した際は、6時間のみの時短労働を申請しました。初めての育児との両立で、今まで通りに働けるか不安だったんです。この制度があったおかげで次第に体を慣れさせながら復帰ができて助かりましたね。

朝起きてから夜寝るまで、座る暇もないほどあわただしい毎日をおくっています。でも「この時間までに仕事を終わらせなきゃ迎えに行けない!」という意識が働いて、前よりもかなり仕事の進め方が速くなりました。子育ては仕事の弊害なんかじゃありません。子どもがいるからメリハリをつけて働くことができるんです。

コカ・コーラウエスト
販売機器サービス株式会社
フィールドサービス部
福岡サービスセンター

岡崎 清美



1日のタイムスケジュール

5:00 起床
5:30 朝食、子どもの支度など
7:45 出発(子どもを保育園へ)
※お客さま訪問の時間帯によっては6:00に家を出ることも
8:15 出勤
8:30 始業
~外まわり~
16:30 事務処理
17:30 退社
19:00 お迎え
~夕食の準備、洗濯、お風呂など~
21:30 就寝

イクボスからひと言!

岡崎さんは、何と言っても仕事に対して責任感が強い。お客さまからの評判もいいんですよ。年齢を気にすることなく自分の意見をきちんと言えるところも素晴らしい。貴重な戦力です。でも、この評価は決して「女性なのがんばっているから」ではありません。彼女の人柄そのものに惹かれているからです。努力をしている人なら誰もが認められる。そんな職場にしていきたいですね。

コカ・コーラウエスト
販売機器サービス株式会社
フィールドサービス部
福岡サービスセンター

重留 信弘



社外ステークホルダーのみなさまからの声



九州ラグビーフットボール協会
会長

森 重隆氏

●九州ラグビーフットボール協会

九州ラグビーフットボール協会は、九州・沖縄地方にまたがる日本ラグビーフットボール協会の地域協会の一つ。広く老若男女に向けてラグビーフットボールの啓発・普及育成・強化・安全推進等を行う。また、ミニラグビーから社会人クラブの管理および大会運営に携わる。

2019年ラグビーワールドカップ日本大会開催を2年後に控え、「FOR ALL」の精神で女子を含め、日本代表選手ははじめトップリーガーや有力社会人、大学チームへの人材の輩出をし続け、「日本ラグビー国際化」の一躍を担ってきている「ラグビー王国・九州」には、伝統的な「ラグビー精神」に基づく文化が根付いていると確信しています。

レッドスパークスラグビー部には、日頃から九州ラグビーフットボール協会の運営ならびに協賛においてご尽力を頂いておりますが、今後は現代の社会問題の一つでもある子どもの貧困や食の問題について取り上げて頂き、また青少年の育成や食の教育なども含めて、九州ならではの文化継承にもお力添えを頂ければ幸いです。

今後ともリーダー役として、ラグビーや社会貢献活動を先導して頂きたいと思っております。



公益財団法人 阿蘇グリーンストック
専務理事

桐原 章氏

●公益財団法人 阿蘇グリーンストック

1995年4月3日設立
2011年4月 公益財団法人として認定
水源涵養等の機能を持つ草原の維持に必要な「野焼き」「輪地切り」支援活動、広葉樹の植林などの自然保全活動に取り組んでいる。

熊本県阿蘇地域の年間降水量は約3,000mmにも達し、その豊富な雨水が大地を潤し、6本の一級河川を満たすとともに熊本の地下水ともなるのです。

阿蘇の草原面積は、約22,000haと日本最大の草原域を誇っていますが、最近の研究で草原も森林に劣らず水源涵養能力があることが実証されています。

森林も草原も手を入れなければ水源涵養能力の低下となりますが、「い・ろ・は・す」の売上の一部を寄付頂く「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」にて支援を頂いており、森林・草原保全活動に大いに活用させて頂いております。

今後、水資源の健全性を守っていくためにもコカ・コーラウエストグループには水質保全について一翼を担って頂くことを期待しております。



公益社団法人 消費者関連専門家会議 西日本支部
九州地区部会長

久保田 一博氏

●公益社団法人 消費者関連専門家会議

企業内の消費者関連担当者の専門家を中心に構成される組織で、規模・業種を問わず、さまざまな企業・団体が加入している。担当者の育成や公演活動をはじめ、企業間での情報交換、行政機関との提言・意見交換を行っている。

女性活躍推進の取り組みとして、女性社員の情報交換、営業職への配置推進、また人材育成プログラムをみても時代に即したタイムリーな取り組みであると感じます。

是非、女性リーダーの育成に向けて具体的な目標を掲げて、推進頂きたいと思っております。

また、働き方改革として、ワークライフバランスの実現のために、さらに多様性を受け入れ、広く人材を活用されることを推進して頂きたいと考えます。

社会環境の変化により消費者問題が多様化・複雑化しているなかで、CSR活動の役割と責任は重みを増しております。

コカ・コーラウエストグループにおいて、今後、共通価値の創造の中で「健全で安全・安心な消費社会の構築」と「消費者志向経営の推進」をより一層進められ、消費者市民社会の実現に期待しております。



関西広域連合 広域企画室
室長

平田 正教氏

●関西広域連合

関西の複数府県により構成する全国初の広域連合として、2010年12月1日に設立される。これまで、関西全体での防災減災プランの推進、カウンターパート方式による東日本大震災への支援など、個々の自治体では対応できない広域行政事務について取り組んでいる。

関西の2府6県4政令市で構成する
関西広域連合は、

- ①災害による被害の軽減
- ②迅速で的確な災害対応

を目的にさまざまな取り組みを実施しています。

去る2017年1月には、災害時における円滑な物資供給を目的に「関西災害時物資供給協議会」を設立いたしました。コカ・コーラウエストグループが、本協議会に快く賛同・参画頂いたことに深く感謝申し上げます。

行政の能力には限界があり、被災者支援には民間企業の協力が不可欠となっています。本協議会を通じ、南海トラフ地震等の大規模広域災害に立ち向かう体制を構築したいと考えています。

今後もコカ・コーラウエストグループには、積極的なご支援をお願いします。



福岡県肢体不自由児者福祉連合会
副会長

服部 美江子氏

●福岡県肢体不自由児者福祉連合会

個人会員およびNPO法人等の団体会員で構成されている。肢体不自由児・者の福祉の増進と、自立による社会参加を目的として、さまざまな事業を推進している。また、他団体等とのネットワーク作りのなかで、制度問題へのアプローチ、行政への働きかけにも積極的に関わっている。

当レポートにある熊本地震の報告で災害対応型自動販売機を初めて知り感動しています。熊本地震の際、甲佐町の職員の方により災害対応型自動販売機が非常時モードに転換され、製品が無償提供された後、ご自身も被災者である社員の方が危険の中、空になった自動販売機の製品補充に向かったのは、コカ・コーラウエストグループの社員としての「使命感」だったのだと感じました。貴社の理念が社員のみなさまに浸透している出来事だと思います。

福岡県肢体不自由児者福祉連合会（福岡県肢連）は、障害者家族団体と事業者の福祉連合で、私個人の活動ベースはNPO法人です。このNPO法人や福岡県肢連の研修会等で貴社の施設を利用して頂き、また福岡県肢連には20年以上も経済的なご支援を頂いております。このような間接的なCSVのおかげで、地域で地道に活動を続けられることを心から感謝しております。

●社外ステークホルダーのみなさまからの声を受けて

みなさまから当社グループへのご期待やご意見など、貴重なアドバイスを頂きましたことに感謝申し上げます。

さて、2016年は「CSRの取り組みが社員の自発的な意思に支えられることで、社員の働きがいへも繋がっていく」という昨年のCSRレポートでのご提言を深く認識しながら活動を行ってまいりました。2017年はこれまで行ってきた基本的責任の遂行を共創価値(CSV)の観点で見直し、社外ステークホルダーのみなさまから頂戴しました貴重なご提言内容を社員の一人ひとりに浸透させることで、より多くのお客さま・地域社会にハッピーを提供できるよう取り組んでまいります。

当社グループは、これまで社会環境の変化を確実に捉えながら企業価値向上に努めてまいりましたが、2017年4月1日のコカ・コーライーストジャパン株式会社との経営統合により誕生いたしますコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社として、これまでの伝統を確実に継承しながら、より高水準の企業価値を目指すエクセレントカンパニーへの進化を目指してまいります。

今後も、みなさまからのたくさんのご意見をお待ちしております。



コカ・コーラウエスト株式会社
常務執行役員
CSV統括部長

岡本 繁樹



健康

私たちの事業は、お客さまの健康にも深く関わっています。幅広い世代のニーズや嗜好に合った優れた商品、サービスを提供することでいつまでも健康に過ごせる生活を支えたいと考えています。

● 初の青汁商品を発売

2016年12月に、果実飲料ブランド「ミニッツメイド」からフルーツ果汁入りの青汁ドリンク「ミニッツメイドおいしいフルーツ青汁」を発売しました。この商品は当社グループのキューサイ株式会社と初のコラボレーション商品です。

原材料の青汁は、キューサイ株式会社の徹底した管理体制のもと、農薬・化学肥料を一切使わずに生産した高品質の国内産ケールを使っています。数ある野菜や果物の中でも高い栄養価を誇るケールは、昨今注目の「スーパー緑黄色野菜」です。



当社事業エリアの
コカ・コーラ
自動販売機、
キューサイ公式
通販サイトで
販売

● 商品に関する情報発信

商品の成分にかかわる情報は、パッケージなどでも情報を公開し、お客さまに分かりやすくお伝えできるよう工夫と改善を重ねています。また、商品を選択するときの参考になるようほぼすべてのコカ・コーラ社商品のパッケージ前面にカロリー情報を表示しています。

商品に関する正しい情報を提供することで、お客さまが健康的な生活習慣を送れるように努めていきます。



パッケージに商品情報公開

● 水分補給セミナー

日常生活やスポーツ時に必要な正しい水分補給について知って頂くために、各地域の学校や各種団体・企業のみなさまを対象としたセミナーを開催しています。

2016年は、事業エリア内9府県で18回約2,600人のみなさまに参加頂きました。
(小中学校6校、高校2校、各種企業団体10団体)



● 「100歳まで楽しく歩こう」プロジェクト

2060年には4人に1人が75歳以上*の高齢者になると推計されています。また、自立して生活できる「健康寿命」は平均寿命より約10年短いといわれています。そこで、2016年にキューサイ株式会社では、健康寿命を100歳まで延伸することを目指し「100歳まで楽しく歩こうプロジェクト」を発足させ、みなさまが100歳まで楽しく歩ける人生を、全力でサポートしていきます。

*内閣府「平成28年版高齢社会白書(全体版)」より



● 特定保健用食品(トクホ)

特定保健用食品(通称:トクホ)とは、からだの生理機能などに影響を与える関与成分(特定の保健の目的に資する栄養成分)を含み、コレステロールが高めで気になる方の食生活の改善に役立ったり、おなかの調子を整えるのに役立つなど、特定の保健の用途に適する旨を表示できる食品です。有効性、安全性などに関する科学的根拠を示して、国の厳しい審査・評価のもとに、消費者庁長官の許可を受けています。



「からだすこやか茶W」



「コカ・コーラプラス」

ポイント1



パッケージに「特定保健用食品」の許可マークが記載されています。

ポイント2

科学的根拠によって効果の有効性や安全性が確認されています。



最終商品による臨床試験を実施

ポイント3

消費者庁への申請がなされており、消費者庁長官から許可を受けています。



消費者庁に申請



審査



消費者庁長官から許可

● 機能性表示食品

機能性表示食品は、事業者の責任において特定の保健の目的が期待できる旨を表示するものとして、消費者庁長官に届出されたものです。ただし、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。



「からだ巡茶 Advance」

ポイント1

パッケージに「機能性表示食品」と記載されています。



届出番号 000

ポイント2

科学的根拠によって効果の有効性や安全性が確認されています。



最終商品による臨床試験、または、効果を示す研究論文や文献調査を実施

ポイント3

消費者庁への届出がなされており、事業者の責任において信頼性が確保されています。



消費者庁に届出



受理



事業者が責任を持って機能性を表示・情報公開

「トクホ」や「機能性表示食品」についての情報は、Coca-Cola Journey内「コカ・コーラ トクホ・機能性表示食品 飲料ガイド」(<https://www.cocacola.co.jp/inryoguide>)をご覧ください。



環境

事業の成長と環境負荷の低減を両立し、社会と当社グループの共創価値につながるイノベーションを通じた「地球環境保全」を進めます。また地域社会における「自然環境保全」と環境啓発を推進する「地域環境推進」により、社会との共創価値を実現します。

環境方針

基本理念

コカ・コーラウエストグループは、地球環境保全を最重要課題のひとつと認識し、飲料を通じて、ステークホルダーにハッピーでいきいきとしたライフスタイルを提供する企業として、持続可能な社会の発展に貢献します。社員一人ひとりと会社が一体となった取り組みにより、環境保全活動を継続的に推進します。

行動指針

- ・事業活動のさまざまな場面で環境に配慮し、環境リスクへの予防手段を優先します。
- ・日常業務の中で、環境負荷低減を目標とするシステムを運用し、その継続的な改善に努めます。
- ・水の有効活用、エネルギー使用の効率化、廃棄物の削減・リサイクルを推進します。
- ・適用される法規制、協定、必要に応じて設定する自主基準等を順守します。
- ・地域社会に貢献し、次世代に成果の残る活動を展開します。
- ・社員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に取り組みます。
- ・ステークホルダーとのコミュニケーションを推進し、良き企業市民として行動します。

● 四国コカ・コーラボトリング全事業所へISO14001の認証範囲を拡大し、グループ一体となって環境経営を推進

環境との調和を目指し、グループ一体となって環境経営を推進しています。2016年は四国コカ・コーラボトリング株式会社の全事業所（本社、小松工場は2000年11月に認証取得）へ環境管理の国際規格であるISO14001の認証範囲を拡大し、環境マネジメントの効果的な運用を行っています。

また、コカ・コーラシステム独自の世界共通のマネジメントシステム「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」(品質・食品安全・環境・労働安全衛生)の運用を推進し、マネジメントシステムの強化を図るとともに、さらなる成長と環境保全の両立のため継続的な改善を推進しています。

製造から空容器回収まで、商品のライフサイクルを通じて発生する環境負荷量を把握し、事業活動全体での環境負荷低減に努めています。

〈コカ・コーラウエストグループと環境とのかかわり〉

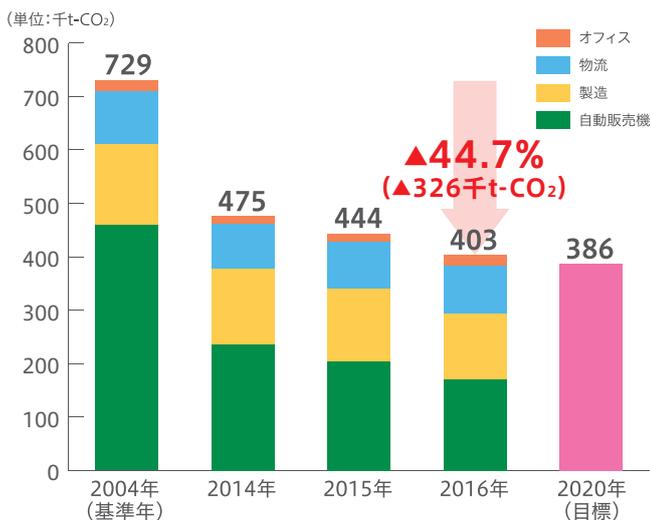


地球温暖化対策

温室効果ガス削減計画に基づき、CO₂排出量削減目標を設定し、温室効果ガスの削減に継続して取り組んでいます。2020年までに2004年(基準年)比47%削減の目標に向けてグループ全社員が一体となって活動しています。

〈2016年温室効果ガス排出量・実績(内訳)〉

目標:2020年までに2004年(基準年)比47%削減(386千t-CO₂)



● 製造部門の取り組み

9つの工場では、製造工程から発生する温室効果ガスを削減するため、重油から天然ガスへの燃料転換や、コ・ジェネレーションシステムの導入を行っています。

また、明石工場へ天然ガスによるコ・ジェネレーションシステムを導入し、2017年1月に稼働しました。



● 物流部門の取り組み

アイドリングストップや経済走行などエコドライブに取り組むとともに、自動販売機やお得意さまへの配送車両には運転状況の解析やチェックを行うため、「セーフティレコーダー」を搭載し、安全運転と燃費改善に取り組んでいます。

また、工場間や倉庫間の輸送における車両の大型化やモーダルシフトの取り組みにより、輸送の効率化を進めています。電気自動車・天然ガス・ハイブリッド自動車などエコカーの積極的な導入や営業車両の小型化など温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

● 営業部門の取り組み

自動販売機などの販売機器は省エネ技術を追求し、冷媒のノンフロン化、LED照明の採用など環境負荷低減に取り組んでいます。また、東日本大震災後の2013年からは電力消費のピーク時間帯の消費電力削減に貢献する「ピークシフト自販機」の導入や、既存機ではピーク時間における冷却運転の輪番停止を実施するなど温暖化防止・エネルギー削減に取り組んでいます。

「ピークシフト自販機」は、日中に冷却用の電力を使わず夜間にシフトすることで、日中の消費電力を最大95%削減しながら最長16時間にわたり冷たい製品を提供できる省エネ自動販売機です。



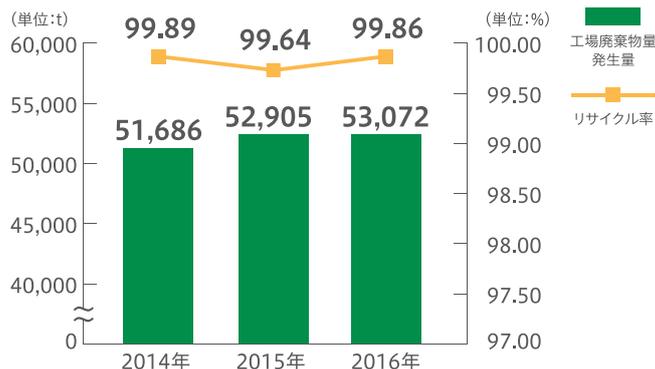
循環型社会の実現

● 工場廃棄物のリサイクル

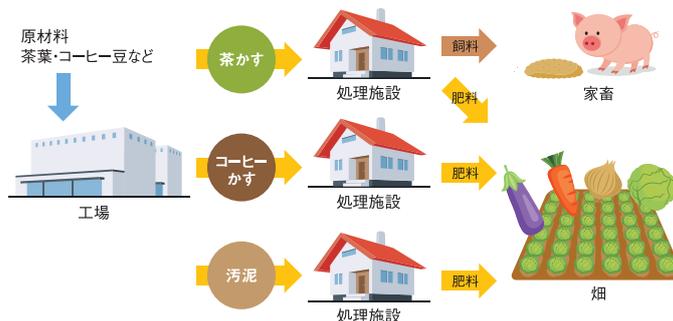
製造にともない発生する廃棄物の分別・リサイクルをすべての工場で推進し、継続してゼロエミッション(全廃棄物リサイクル99%以上)を達成しています。

なかでも発生量の大部分を占めるコーヒーかす・茶かすは肥料や飼料として再資源化100%を達成しています。

〈工場廃棄物発生量とリサイクル率の推移〉



〈工場廃棄物のリサイクル〉



● 環境に配慮した容器包装 サステナブル・パッケージ

コカ・コーラシステムでは、製品パッケージは、環境にやさしいと同時に使いやすくなければならないと考え、これを「サステナブル・パッケージ(持続可能な容器)」と呼んでいます。

「ecoるボトル しぼる」「ペコらくボトル」を採用するなど容器の軽量化や空容器的回収・リサイクル推進に取り組んでいます。また、2020年までにすべてのコカ・コーラ社製品に植物由来の原料を使用したPET ボトル、またはリサイクルPET 樹脂を使用したPET ボトルを採用することを目指します。

〈ecoるボトル しぼる〉

「いろ・は・す」

〈ペコらくボトル〉

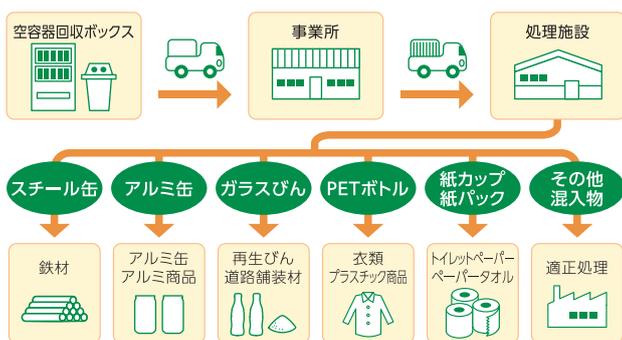
「爽健美茶」「綾鷹」「森の水だより」「アクエリアス」



● 空容器的リサイクル

空容器回収ボックスから回収したスチール缶、アルミ缶、ガラスびん、PETボトルなどは、分別して容器別に再資源化を行っています。

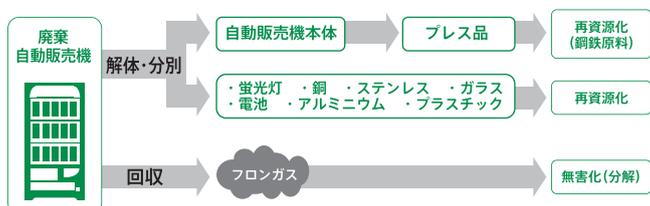
〈空容器リサイクルフロー図〉



● 自動販売機のリサイクル

老朽化などで廃棄対象となる自動販売機はすべて再資源化しています。

自社処理施設である「北九州さわやかリサイクルセンター」などにて回収された廃棄自動販売機の解体・分別を行い、フロンガスの適正な回収を実施しています。



地域環境推進活動

● 地域美化活動

事業所周辺の道路・公共の場所などの清掃活動を定期的実施しています。

また、地域交流の場として、事業所が所在する自治体主催の清掃活動にも積極的に参加しています。



ラブアース・クリーンアップ2016(福岡市)



京都・まち美化大作戦(京都市)

● 環境教育支援

公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団では、地域に根ざした環境教育・環境保全活動を促進することを目的に「コカ・コーラ環境賞」を実施し、各地で行われている青少年による環境ボランティア活動を顕彰・支援しています。



2016年で23回目を迎えたコカ・コーラ環境教育賞



● 環境会計

環境関連活動における投資額、費用額ならびに経済効果を把握し、効率的な環境経営の推進につなげています。

当社グループの環境会計は、「環境マネジメント」「地球温暖化対策」「廃棄物管理・リサイクル」「水資源の管理」「地域環境推進活動」の5つの活動に区分し、環境保全コストと経済効果を把握しています。

環境会計(2016年実績)

(単位:百万円)

活動区分	環境保全コスト		経済効果
	投資額	費用額	
環境マネジメント	27	33	1
地球温暖化対策	715	914	180
廃棄物管理・リサイクル	83	2,077	513
水資源の管理	224	642	0
地域環境推進活動	0	234	0
合計	1,049	3,900	694

コミュニティ

青少年の健全育成、スポーツ振興、地域社会の活性化を目指し、さまざまな活動に取り組んでいます。今後も「地域における社会課題」に向き合い、社会と当社グループの共創価値実現に向けて活動してまいります。

文化・教育を通じた支援活動

いちむら

● 市村自然塾 九州

市村自然塾九州は、「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念とした青少年教育活動を推進する特定非営利活動法人です。子どもたちの健全な成長を支援するために、2003年開塾時から支援を行っています。

小学4年生から中学2年生までの塾生たちは、8ヵ月間にわたって週末の2泊3日を仲間たちやペアレント(世話人)とともに過ごし、佐賀県鳥栖市の豊かな自然の中で農作業を中心としたさまざまな活動を体験します。今日までに、803人の子どもたちが卒塾していきました。

農作物の栽培から収穫までの作業を通じたねばり強さや多様な自然の生態と命の大切さを学び、さらに共同生活を通じて『人として守るべき規律を身につけ、主体性・創造性などの資質を育む場』を提供しています。



● クラシックコンサート

豊かな社会(心豊かな人材育成)づくりに貢献するため、1989年から地域のみなさまに質の高い本格的なクラシック音楽演奏会「コカ・コーラウエスト クラシックコンサート」を開催しています。2016年は大阪府、愛媛県、福岡県の3会場において幅広い年代のお客さまにご来場頂き、素晴らしい音色を堪能して頂きました。



● ファミリーミュージカル

親子の絆を育む活動として、1994年から夏休み期間中に親子で楽しめる「コカ・コーラウエスト ファミリーミュージカル」を開催しています。2016年は、知恵と勇気と友情の物語をテーマにした「ルドルフとイッパイアッテナ」を兵庫県、福岡県、鹿児島県の3会場で開催し、地域のお客さまを招待しました。親しみやすい演目のミュージカルで、ご来場頂いたお客さまに楽しいひとときを過ごして頂きました。



スポーツを通じた支援活動

● 一輪車指導者研修会を支援

小学校や特別支援学校の先生方を対象に一輪車指導者研修会を開催しています。実技講習を通じて一輪車の楽しさを体験し、技術向上と子どもたちへの指導法について学んで頂くために毎年たくさんの先生方に参加頂いています。

2016年は、エリア内8ヵ所で開催し、当社の社員が乗車補助など実技のサポートを行いました。



スポーツを通じた支援活動

● 野球教室

四国各地の少年野球チームを対象に、四国アイランドリーグPlusの選手やコーチに協力を頂き「コカ・コーラ野球教室」を開催しています。この教室では、ボールの握り方、投球フォーム、バットの構え方など、野球の基本動作に加え、チームワークやスポーツマンシップの大切さについてもわかりやすく伝えています。



● コカ・コーラ出前 体育の授業

すべてのスポーツの基礎である「ランニング」を通して子どもたちの心と体を育てるプログラムを2008年から開催しています。これはコカ・コーラ教育・環境財団、NPO法人日本ランニング振興機構と協働で実施している活動で、2016年は中学生を対象に広島県、鳥取県、熊本県で実施しました。約300人の中学生が「コカ・コーラ出前 体育の授業」に参加し、運動することの楽しさと正しい走り方を学びました。



その他の支援活動

● 地域で開催されるイベントへの協力

地域社会とともに歩む企業として、各地で開催されるさまざまなイベントに協力しています。2016年5月に広島市で開催された「ひろしまフラワーフェスティバル」では当社ホッケー部とラグビー部の選手が企業ブースを運営し、地域のみなさまと交流をはかりました。



● さわやかサマースクール

2007年より行政や市民団体、教育機関と協働で、夏休み期間中に宮崎県えびの市のグリーンパークえびの(えびの工場)を主会場に、小中学生向けの教育イベントを開催しています。2016年は18教室を開催し、約700人の子どもたちが豊かな自然環境の中でさまざまな活動を通じて「考える力」を養いました。このイベントは行政からの高い評価を得ており、2016年2月に宮崎県より「明日のみやぎづくり表彰(協働部門)」を受賞しました。



● 奨学支援事業

コカ・コーラ教育・環境財団では、国際社会が求める青少年の育成、また地域社会を支える人材の育成に貢献することを目的に奨学支援事業を行っています。この事業は40年以上にわたり、経済上の理由により大学への進学が困難な状況にある学生を支援しています。2016年は新たに22人の学生が奨学生となりました。

※コカ・コーラ教育・環境財団 奨学生は、毎年秋に各高等学校を通じて募集しています。

地域マラソンをサポート

2016年2月21日に「第5回熊本城マラソン」が開催されました。熊本市内中心部をスタートし、新旧の街並みを走り抜け、歴史、自然、文化を感じながら熊本城をゴールとする魅力的なコースです。当社はオフィシャルスポンサーとして「アクエリアス」「い・ろ・は・す」を提供し、ランナーの水分補給をサポートしました。そのほかにも、福岡マラソン、大阪マラソンなど市民マラソンにも協力しています。





お客さま満足

より満足度の高い、価値ある商品を提供し続けるために、私たちはお客さまの声を大切に、安全・安心で優れた品質の商品・サービスをお届けします。

基本方針

私たちコカ・コーラウエストグループは、お客さまのご満足実現を、最優先すべき判断基準として位置づけ、企業活動を行ってまいります。

私たちは、お客さまの視点に立ち、お客さまの声を積極的に企業活動に活かすことで、常に「おいしさ」「便利さ」「楽しさ」「安心」を提供し続けると共に、更なるお客さまのご満足を徹底して追求します。

行動指針

- ・お客さまのお問合せ・ご指摘には迅速かつ適切に誠意を持って対応します。
- ・お客さまに安心して飲んで頂ける、安全な商品を提供します。
- ・お客さまの声を積極的にお聞きし、ニーズに合った新鮮で高品質の商品・サービスを提供し、より高いご満足が得られるよう、課題の解決、商品・サービスの改善に努めます。
- ・社会に対する責任として、関係法令および社内の自主基準を遵守いたします。

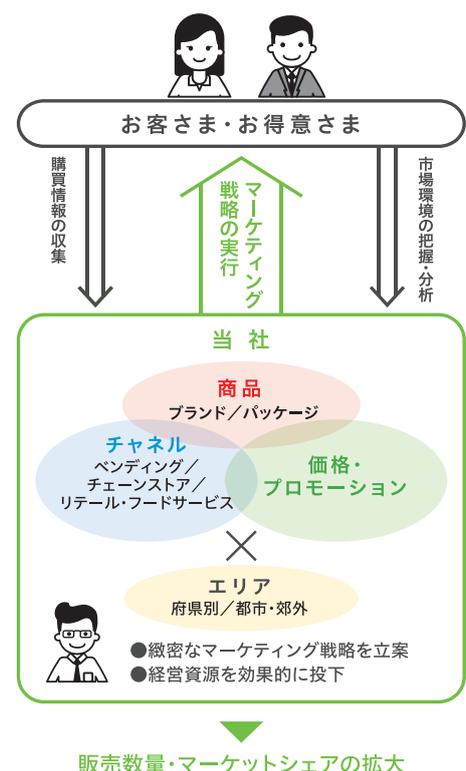
営業活動の状況

● 営業戦略の概要

各販売チャネルを府県単位まで細分化し、お得意さまや他社の状況に応じてマーケティング費用を効果的に投下。緻密なマーケティング戦略を実行しています。売上高・利益の増加を達成し、販売数量・マーケットシェアの拡大を図っています。

● 事業エリアの状況

炭酸飲料、缶コーヒーなど多くの主要なカテゴリーにおいてマーケットシェア1位を獲得。清涼飲料業界トップの地位を確立しています。



2016年 手売りマーケットシェア
(除く自動販売機)



出典(株)インテージ「ストアオーディット」

2016年 屋外自動販売機
マーケットシェア



出典(株)マクネット(調査期間2016年5月~6月)

3つの販売チャネルでの取り組み

① チェーンストアでの取り組み

スーパーマーケットやディスカウントストアなどで、店舗の業態やお客さまのニーズに沿った商品を品揃え。季節・行事に合わせた販売促進策やお惣菜とのセット販売、酒コーナーでの割材など、新たな売り方を展開しています。



② ベンディングでの取り組み

自動販売機設置に関するご相談、ご要望に応じたご提案をはじめ、自動販売機設置後の商品補充やメンテナンスなど、自動販売機に関するすべてのサービスを担当しています。

電子マネーへの対応や省エネ性能に優れた自動販売機、地域社会に貢献する自動販売機なども提供しています。

自動販売機メンテナンス業務

- オペレーション担当者と機器メンテナンス担当者との連携による故障の削減
- 自動販売機の不具合を速やかに復旧
- 自動販売機の故障を未然に防ぐ点検
(機械内の清掃、故障につながる劣化部品の交換など)
- 自動販売機の清掃美化活動
- 職場での勉強会、技術研修会への参加を通じた技術力の向上

● Coke ON対応自動販売機

専用スマホアプリ(Coke ON)を利用した新しいサービスで、商品購入ごとにアプリ上にスタンプが追加されます。スタンプを15個集めると自動販売機で商品1本と引き換えることができます。

スマホアプリを利用した、これまでにない新しい購入体験をお客さまに提供します。



● 自動販売機の多言語対応

自動販売機の多言語表示を順次開始するとともに、スマートフォンで利用できる商品情報案内を15言語で開始しています。



③ リテール・フードサービスでの取り組み

〈リテール〉

交通・学校・病院・オフィスなどの売店や食料品店などの一般小売りマーケットをはじめ多岐にわたる業種・業態を担当しています。飲用目的、飲用シーンに合わせて最適な商品(容器・容量・価格)と販売方法を提案しています。

・ドロップシッピング(ネット通販)

ECモール(インターネットの通販媒体)に出店されている通販店さまの売場にコカ・コーラ社の商品を掲載・販売して頂く提案をしています。重くかさばる商品を当社からお客さまへ直接お届けするので、お客さまにも通販店さまにも重宝されています。

〈フードサービス〉

フードサービスは、HORECA*業態に加え、映画館・カラオケなどのレジャー施設のお得意さまを主として担当しています。シロップ商品から業務用パッケージ商品まで幅広い商材を業態や店舗規模に応じて、さまざまな売り方やその訴求方法を提案。お得意さまとのパートナーシップ強化に努めています。



*HORECA:ホテル・レストラン・カフェの頭文字

お客さま満足向上に向けた取り組み

● ISO10002 PDCAサイクル

ISO10002*のPDCAサイクルによるお客さま満足の向上を目指しています。

お客さまから頂いた声を積極的に企業活動に活かすことがお客さま満足の向上につながると考え、お客さまのご要望やご期待をしっかりと社内で共有。商品の品質やサービスの改善活動に取り組んでいます。

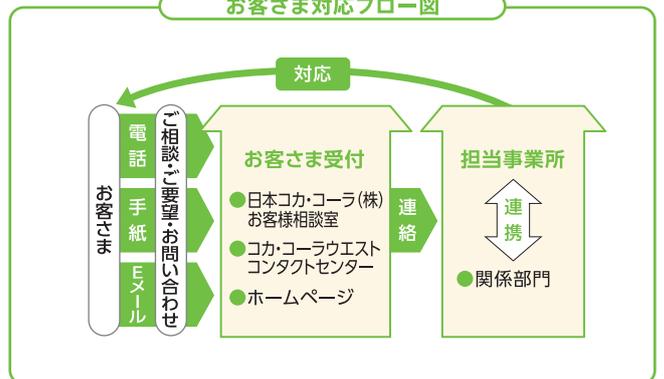
*ISO10002：ご指摘対応の基本原則や、ご指摘対応プロセスの手順を規定した国際規格

● お客さまの期待に応えるために

応対スキルおよびコミュニケーターのモチベーション向上を目的とし、公益財団法人日本電信電話ユーザ協会主催の「電話応対コンクール」に参加しています。

また外部機関による応対品質評価を定期的の実施して、課題点の洗い出し、改善策を講じて、さらなるお客さま満足の向上に努めています。

お客さま対応フロー図





品質保証

お客さまに、常に安全・安心でフレッシュな商品を提供し、業界ナンバー1の信頼を獲得することを目指した取り組みを続けています。

品質保証基本方針

- ・コカ・コーラウエストグループに勤務するすべての者が、「品質」を最優先事項として日常業務を遂行する。
- ・各部門がそれぞれの役割と責任を認識して、お客さま起点の品質管理を実践する。
- ・すべてのステークホルダーからコカ・コーラウエストグループの品質保証に高い評価を頂くことを目指す。



お客さま起点の品質保証

品質保証基本方針のもと、原材料調達、製造、流通、販売・サービスに至るすべてのプロセスで、全社員が常にお客さま起点で品質の確保・向上に取り組んでいます。国内の基準を遵守するとともに、コカ・コーラシステムでは独自のマネジメントシステム「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」に基づき世界共通のオペレーション管理を行っています。



〈調達〉

厳正な品質基準に基づいた原材料を使用しています。



〈製造〉

確かな品質をお届けするために品質管理システムの遵守と品質管理技術の向上に努め、製品の安全性確保を図っています。



〈保管・輸送〉

工場で製造された商品を高品質のままお届けするように丁寧な扱いを徹底しています。



〈お客さま〉

お客さまからのご意見・お問い合わせを改善活動につなげています。



〈販売(店舗・自動販売機)〉

お客さまに常に安全・安心・フレッシュな商品を提供できるように店舗や自動販売機における商品管理に努めています。



調達

水・原材料は品質基準に基づき厳しいチェックをしています。

● 原材料の管理

製品に使用する水や原材料は、国内の基準と「KORE」の品質基準に基づき、社員が一つひとつ厳正にチェックし、安全性に問題がないことを確認しています。



製造

徹底した衛生管理と品質管理で製品の安全性を確保します。

● 製品の安全性について

製造工場においては、厳密な衛生管理が行われています。中でも、お茶やコーヒーなどのPETボトル製品は、無菌充填ラインで生産され、充填・密封工程における微生物の混入をシャットアウトしています。

● 食品安全への取り組み

すべての工場ではFSSC22000(食品安全マネジメントシステムの国際規格)を取得しており、原材料受け入れ、調合、充填といった各製造工程において重要管理ポイントを設定し、徹底した管理を行っています。

● 品質管理

すべての工程において検査を行い製品の品質を確認しています。製造ラインでは充填量やキャップの巻締具合、ラベルの位置、賞味期限の印字などを検査機で判別します。さらに、オペレーターが検査手順に従い定期的に確認しており、人と機械のダブルチェックを行っています。また、社内で資格認定された検査員による官能検査、理化学検査、外観検査など、徹底した品質管理を行っています。



● 継続的な改善活動

基本的な5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の取り組みをはじめ、定期的に工場管理部門と品質保証部門が工場をチェックし不具合があれば改善しています。また、OE(Operational Excellence)活動を通じて、生産活動における無駄や非効率を洗い出し、それらを排除することで、より優れた生産現場の実現を目指しています。



保管・輸送

品質を保ったままお届けするためフレキシブルな体制を構築しています。

● 供給・物流体制

営業部門とSCM部門が連携して、お客さまのニーズに柔軟に対応できる供給・物流体制を構築しています。いつ・どこで製造した商品がどこに・いくつ在庫としてあるかをシステム上で把握し、過剰な生産や在庫を抑制することで常にフレッシュな商品をお客さまに提供できる体制を構築しています。



販売

安全・安心・フレッシュな商品を提供するため商品管理を徹底しています。

● 販売管理

お取引いただいているお客様と協力して保管方法や売り場、在庫商品のチェックを実施し商品管理に努めています。自動販売機では商品1本1本を丁寧に扱うとともに、賞味期限管理を徹底しています。



● ポストミックス品質管理

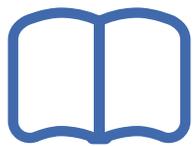
ディスペンサーやカップ式自動販売機は、販売機内でシロップやパウダーを商品化して販売するため徹底した品質管理が求められます。当社グループでは独自の社内認定制度を設け、認定を受けた専任の担当者が衛生管理をはじめとした品質管理業務を行っています。



ポストミックス
品質保証技能認定

● トレーサビリティ

商品を遡及する仕組みをもっており、原材料管理記録、工程管理記録、流通管理記録などの履歴情報により、いつ、どこで製造し、出荷されたかを把握することができます。



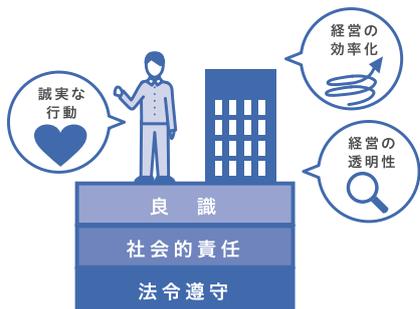
コンプライアンス

法令を守るのはもちろんのこと、社会的責任と良識を持ち、誠実に行動します。また、経営の効率化・透明性向上に取り組み、すべてのステークホルダーからの信頼が得られるよう努めます。

● 内部統制システム

業務の適正を確保し、企業価値を向上させるため、当社では「内部統制基本方針」を制定しています。この方針に基づいた内部統制システムは、グループ会社の経営管理、コンプライアンス、リスク管理、内部監査などを統一化しています。

さらに担当役員と会議を毎月開催し、内部統制システムの運用状況を確認。四半期ごとに取締役会へ状況を報告しています。



● コンプライアンスに関する取り組み

コンプライアンスに関する知識と理解を高めるため、当社グループで定めた行動規範を元に各種社内研修を実施しています。

また、当社グループ内で働くすべての人に研修が行き渡るよう、コンプライアンス問題と解説をまとめた資料を全所属長に配信し、所属長から所属メンバー全員にコンプライアンスの基礎や時事問題のポイントを説明し、話し合う機会を定期的に設けています。

なお、業務を委託する協力会社に対してもコンプライアンス意識向上を目的に、研修会を毎年2回実施しています。



● 購買方針

調達業務で基本姿勢・活動指針、守るべきルール等を明文化した「購買の基本原則」を制定し、公正で透明性の高い調達活動を推進しています。

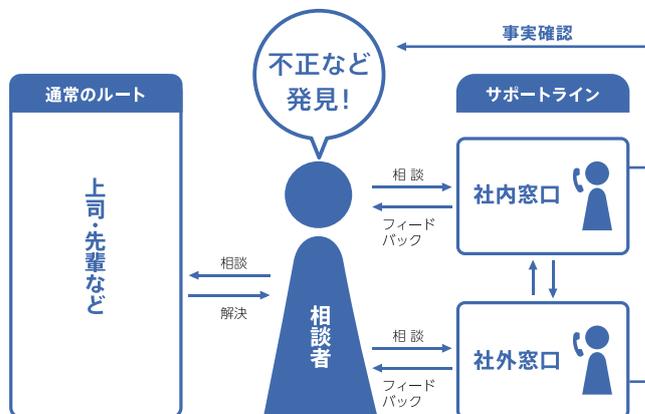
また、原材料はザ コカ・コーラ カンパニーにより認定されたサプライヤー（原材料の供給元）から調達し、世界的に統一された高い品質の保持に努めています。

● 内部通報制度

法令違反や行動規範に反する行為、不正・不祥事を発見し、通常的手段・方法で上司などに相談し難い場合、申告窓口「コカ・コーラウエストグループコンプライアンスサポートライン」に申告することができます。

運用にあたっては、コンプライアンスサポートライン運用規定に「通報者の保護」「守秘義務」を遵守すること、また「違法行為が確認された場合の対応」などを定めています。なお寄せられた情報は、経営会議に報告し、健全な企業経営に努めています。

〈コンプライアンスサポートラインの仕組み〉



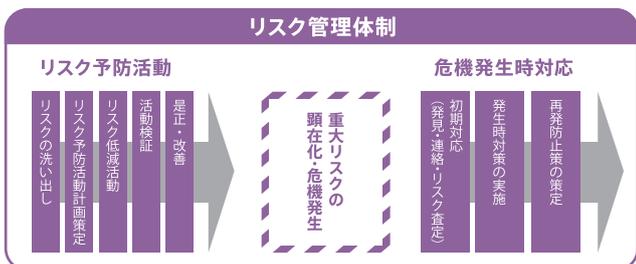
⚡ リスク管理

会社が抱えるさまざまなリスクに対して発生を予防するとともに、万一、発生した場合に被害を極小化するための行動が迅速・的確にとれる「リスクに強い会社」を目指しています。

リスク管理体制

「コカ・コーラウエストグループリスク管理規定」を定め、リスク管理体制を整備しています。

リスクを未然に防ぐため、各部・グループ各社ごとにリスクを洗い出し、経営面や管理など第一線の社員が関わる業務での予防活動計画を策定し、実践しています。



● 危機発生時の対応

危機が発生した際、迅速な連絡と報告および確実な対応ができるよう、対応フローや職制に応じた役割を明確にしています。また、製造事故、自然災害などさまざまな事象を想定したシミュレーショントレーニングを会社・階層別実施しています。



情報保護活動

● 情報保護への取り組み

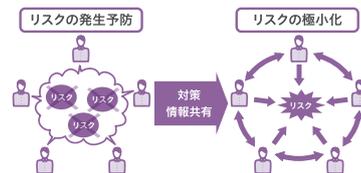
リスク予防活動の一環として情報保護に関するポリシーや規定、手順書類を整備し、内部統制 (J-SOX) やコカ・コーラシステムのセキュリティフレームとの整合性を図っています。

※情報保護活動：企業の秘密情報や個人情報などが、不正に社外に流出することを防ぎ、コーポレートブランドの失墜やお得意さまの信用低下を未然に防ぐ活動



情報の共有

リスクや、リスクにつながりそうな事案が発生した場合は速やかに主管部門に報告されます。またその状況・対応については社内ルールに則り、役員に共有・報告しています。



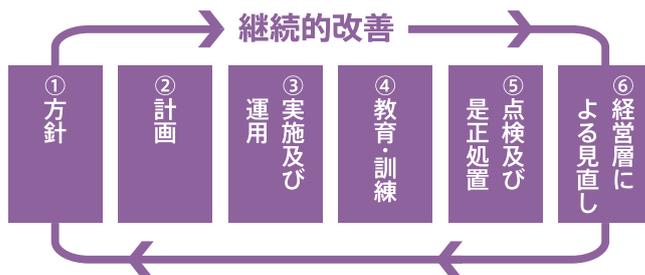
BCP (事業継続計画)

● 大規模災害に備えたBCP

大規模災害発生時に社員と家族を守り、非常時にも確実に製品をお客さまにお届けするという清涼飲料メーカーとしての社会的責務を果たすため、迅速な事業復旧を目的としたBCPを策定し、継続的に見直しを行っています。

また、災害発生時の初動対応における最優先事項として、社員と家族の安否を確認し報告する「基本行動」を浸透させることを目的に、安否確認システムを活用した訓練を定期的実施しています。

熊本地震発生後は、すべての事業所で地震を想定した防災訓練を行い、被害を最小限にするよう努めています。



● BCPの基本姿勢

お客さまや社員、地域社会などすべてのステークホルダーへの責任を果たすために、平常時の備えから初動対応、事業復旧までを策定範囲として取り組んでいます。

人権尊重と社員の働きがい

社員一人ひとりが自らの人権だけでなく周囲の人権についても正しく理解し、相互に尊重し多様性を認めあいながら働きます。また、社員と会社の強い信頼関係のもと、個人の特性や能力を生かした人材育成・活用を促進し、社員が仕事を通じて働きがいと誇りを持てる会社を目指します。

人権尊重

～相手の立場に立った行動ができる社員育成～

● 人権啓発推進への取り組み

「人権啓発活動」で、同和問題をはじめとして在日外国人問題、障がい者問題、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント問題など、さまざまな人権問題に積極的に取り組むため、人権啓発推進要綱を定めています。

■ 推進体制 (2017年1月1日現在)

人権に関するグループ意思決定機関として社長を委員長とし、役員、グループ会社社長を委員とした「コカ・コーラウエストグループ人権啓発推進委員会」を設置し、推進を図っています。

主たる活動内容	コカ・コーラウエストグループ人権啓発推進要綱の審査・承認 年度毎のコカ・コーラウエストグループ人権啓発推進活動の審査・承認 12月の人権週間に合わせて開催する「コカ・コーラウエストグループ人権啓発講習会」の主催
開催頻度・時期	1月／委員会の開催 議題：①コカ・コーラウエストグループ人権啓発推進要綱の審査・承認(必要に応じて) ②当年度のコカ・コーラウエストグループ人権啓発推進活動の審査・承認 6月／委員会の開催 議題：当年度のコカ・コーラウエストグループ人権啓発推進活動の進捗確認 12月上旬(人権週間内)／コカ・コーラウエストグループ人権啓発講習会の実施(主催)

■ 啓発活動

〈2016年の活動テーマ〉

- ① ハラスメントの撲滅
- ② 同和問題の正しい理解
- ③ 多様性尊重の風土醸成



ワークライフバランスの推進

～仕事と生活の相乗効果を高める～

● 労働時間「適正化」に向けて

日々の活動における課題や問題点に関して会社と社員が改善策を検討するHappiness会議を職場やエリア単位で定期的に行っています。

「時間管理」については、重要な課題として、Happiness会議の中で必須の検討テーマとし、職場やエリアごとに課題解決策を検討し自発的に取り組んでいます。

また、効果があった取り組みについては、他の職場に好事例として共有しています。

〈労働時間削減に向けた取り組み事例〉

- ・定時退社デーの実施
- ・会議時間短縮のための会議ルールの策定ほか



● 仕事と生活の両立支援

法定を超えた制度を導入するとともに、年次有給休暇を取得して男性も育児に関わるという選択肢も広げています。

■ コカ・コーラウエストグループ「第四期次世代育成支援行動計画」

〈基本方針〉

コカ・コーラウエストグループは少子化対策・今後の労働力の確保・消費人口の拡大を目的として「次世代育成支援対策」に積極的に取り組みます。

〈計画期間〉

2015年4月1日～2019年3月31日(4年間)

〈内容〉

- ① 仕事と生活の両立支援に関する制度周知および取得促進を実施
- ② 総労働時間削減推進のための措置を実施

女性活躍推進

～一人ひとりの能力を生かし多様性を推進～

● 目指す姿

ダイバーシティの属性の一つである女性の活躍を推進することで、社内のあらゆる場面で女性社員が活躍し、多様な価値観・視点が事業活動全般に反映されていることを目指す。

● 数値目標

〈2020年数値目標〉

コカ・コーラウエストグループ

女性社員リーダー職以上比率および女性社員比率15%

● 取り組みのテーマと内容

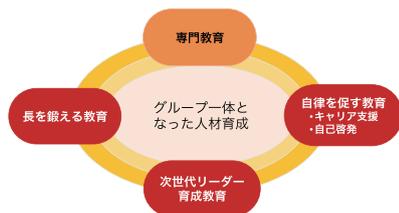
- ① 女性社員の育成強化と積極的任用
 - ・女性管理職候補向け「マネジメント力向上研修」の実施
 - ・女性リーダー育成プログラムの実施
- ② 女性採用拡大とあらゆる職種への配置・定着
 - ・新卒女性の積極的採用とあらゆる職種への配置
- ③ 多様性を重んじる組織風土の醸成
 - ・階層別研修の実施、社内報・グループポータルサイトに活躍する女性を紹介

人材育成(キャリア開発)

～経営目標に連動した組織目標に果敢に挑戦～

● キャリア開発の取り組み

「企業理念の理解を原点に経営目標に連動した組織目標に果敢に挑戦し、期待される結果を出す人材」の育成を目指し、グループ各社と一体となって人材教育に取り組んでいます。そのテーマは、部門長、所属長の組織マネジメント力を上げるための「長を鍛える」、ステップアップに必要なスキルや知識習得のための「次世代リーダー育成」、自らの実行力を強化するための「自律を促す」です。また併せて、業務遂行のために必要なスキルを習得する「専門教育」を実施しています。



人材育成(評価)

● 人材育成のための3つの評価制度

社員の役割・成果に応じて公正・公平に処遇するため、「組織評価制度」「人事評価制度」「適性評価制度」の3つの評価制度で運用しています。これらの評価を通じて、社員のキャリアアップを支援しています。

■ 組織評価制度(W-Compass)

組織の成果を測定

■ 人事評価制度(W-Challenge)

個人の目標に対する達成度を測定

■ 適性評価制度(W-Watch)

マネジメント適性、職務適性、キャリアデザイン

労働安全衛生への取り組み

● 健康管理

〈取り組み方針〉

- ・疾病の早期発見・早期治療
- ・病気にならない心身づくり

〈具体的な取り組み〉

- ・定期健康診断後の個別フォロー(保健指導など)
- ・季節性疾患、流行性疾患に対する啓発活動と注意喚起
- ・熱中症予防のための飲料配布
- ・自身のストレス状態を把握するためのストレスチェック(セルフケア)
- ・メンタルヘルス対応スキル向上のための管理者研修(ラインケア)

● 労働災害管理、車両事故管理

〈取り組み方針〉

- ・不安全行動の排除
- ・不安全状態の除去

〈具体的な取り組み〉

- ・危険予知トレーニング(KYT)ツールの配信
- ・車両の安全運転教育
- ・各職場における安全衛生重点取り組みの設定と実践
- ・「スマイルと帰ろう」プログラム※の展開



※「スマイルと帰ろう」プログラム
安全意識の向上・安全文化の醸成による重大な労働災害ゼロを目指したコカ・コーラシステム共通の労働安全プログラム

子ども参観日を開催

社員の子供が実際に働く親の姿を見て、家族のコミュニケーションや絆を深めるとともに、職場の上司や同僚へ育児に対する理解を深めることを目的に「子ども参観日」を開催しています。2016年8月、本社(福岡市)にて、小学1年生から中学2年生までの社員の子供も24名が参加し、オリジナルラベルづくりや名刺交換など、職場での1日を体験しました。



コカ・コーラウエストグループ 2016年活動実績

社会的責任に関する国際規格であるISO26000の中核主題に基づき、取り組んできた主な活動実績を紹介します。

ISO26000	項目		2014年	2015年	2016年	単位	
環境	原材料	原液・コーヒー豆・茶葉等	158	156	156	千t	
	資材	PETボトル・缶・ダンボール	141	119	118	千t	
	水使用量		7,496	7,386	7,470	千m ³	
	水使用量原単位 ^{*1}		4.49	4.45	4.41	L/L	
	使用エネルギー量	製造	電気	153,882	156,635	158,293	千kWh
			都市ガス	25,003	22,645	22,056	千m ³
			LNG	7,250	7,733	2,952	t
			LPG	20	11	8	t
			A重油	3,037	2,921	4,010	kL
		物流	ガソリン	4,876	4,571	4,447	kL
			軽油	27,469	29,865	31,935	kL
			天然ガス	189	178	169	千m ³
			LPG	0	0	0	t
		オフィス	電気	35,802	35,363	34,497	千kWh
			都市ガス	120	118	117	千m ³
			LPG	189	177	175	t
			ガソリン	166	143	111	kL
			軽油	2	0	0	kL
			灯油	20	15	14	kL
		販売	電気(自動販売機)	607,099	525,940	395,901	千kWh
		工場排出物量		51,686	52,905	53,072	t
	温室効果ガス(CO ₂)排出量	製造	140	136	124	千t-CO ₂	
		物流	84	88	88	千t-CO ₂	
		オフィス	15	15	21	千t-CO ₂	
		販売	236	204	170	千t-CO ₂	
		合計	475	444	403	千t-CO ₂	
	回収リサイクル	スチール缶	15,145	9,769	5,919	t	
		アルミ缶	5,300	6,737	7,594	t	
		びん	6,675	6,510	6,055	t	
		PETボトル	11,234	11,702	12,235	t	
紙容器		108	107	27	t		
合計		38,463	34,825	31,830	t		
自動販売機リサイクル	自社処理数	25,946	29,706	30,666	台		
	委託処理数	13,524	29,080	22,094	台		
	合計	39,470	58,786	52,760	台		
エコカー導入台数	ハイブリッド	699	748	1,038	台		
	天然ガス	38	37	35	台		
	電気自動車	33	33	34	台		
	合計	770	818	1,107	台		
環境配慮型自動販売機設置台数		153,797	174,178	200,818	台		
環境経営度ランキング ^{*2}	食品	10	12	15	位		
	製造業	141	189	215	位		

ISO26000	項目	2014年	2015年	2016年	単位	
コミュニティへの 参画および コミュニティの発展	さわやか自然の森参加者数	422	500	489	人	
	地域美化活動参加者数	712	653	555	人	
	市村自然塾九州参加者数	60	60	60	人	
	クラシックコンサート開催	4	2	3	回	
	ファミリーミュージカル開催	4	2	3	回	
	小学校への一輪車贈呈(四国エリア含む)		123	75	106	校
			1,240	700	777	台
	特別支援学校への情報機器教材贈呈	19	9	11	校	
災害対応型自動販売機の設置	1,468	2,468	2,854	台		
消費者課題	コンタクトセンター応答率 ^{※3}	98.5	98.6	94.0	%	
人 権	正社員数		7,514	7,380	7,261	人
		うち男性	6,829	6,679	6,561	人
		うち女性	685	701	700	人
	新卒3年後定着率 ^{※4}	93.4	95.5	93.9	%	
	女性管理職率	2.5	2.7	2.5	%	
	障がい者雇用率 ^{※5}	2.1	2.2	2.3	%	
人権研修受講者数 ^{※6}	7,644	6,867	9,624	人		
労働慣行	育児休業取得者数		63	52	45	人
		うち男性	1	1	0	人
	介護休業取得者数	0	1	1	人	
	チャレンジ休業 ^{※7} 取得者数	0	0	1	人	
社員働きがい ^{※8}	46.5	48.5	57.8	%		

注)「環境」については、キューサイグループをのぞく合計数値

※1 水使用量原単位：商品1Lを製造するために使用する水量

※2 株式会社日経リサーチが行う「環境経営度調査」報告書より引用

※3 コンタクトセンター応答率：8:30~18:00の間の応答率(2016年より、旧南九州コカ・コーラボトリングエリアを含む)

※4 新卒3年後定着率は、コカ・コーラウエスト、コカ・コーラウエストプロダクツの合計数値

※5 障がい者雇用率は、コカ・コーラウエスト単体数値

※6 人権研修受講者数：派遣社員等含む

※7 チャレンジ休業：社員の自己成長とキャリアアップを支援することを目的とした休業制度

※8 社員働きがい：社員を対象とした働きがいに関するアンケートで、肯定的な回答をした人の割合

コカ・コーラウエストグループの概要

●会社概要 (2016年12月31日現在)

商号	コカ・コーラウエスト株式会社 (英文: COCA-COLA WEST COMPANY, LIMITED)
設立	1960年12月20日
資本金	152億3千1百万円
代表者	代表取締役社長 吉松 民雄
従業員数	8,616人(連結)、1,635人(単体)
決算期	12月
主な事業内容	コカ・コーラ等清涼飲料水の製造・販売
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所(市場第一部)、証券会員制法人福岡証券取引所



●グループ会社 (2016年12月31日現在)

コカ・コーラ事業

コカ・コーラウエストベンディング株式会社

事業内容: 自動販売機のオペレーション事業

西日本ビバレッジ株式会社

事業内容: 自動販売機による清涼飲料水、食品等の販売および
オフィス用コーヒーの販売

株式会社カディアック

事業内容: 関西国際空港内での自動販売機のオペレーション事業

株式会社ウエックス

事業内容: 飲料水、食品等の自動販売機オペレーション事業

コカ・コーラウエスト販売機器サービス株式会社

事業内容: 自動販売機の設置・メンテナンス事業

コカ・コーラウエストセールスサポート株式会社

事業内容: 拠点内勤、事務センターおよびコンタクトセンター事業

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社

事業内容: 飲料の製造事業

コカ・コーラウエストサービス株式会社

事業内容: 不動産の賃貸、売買、仲介および管理事業ならびに
保険代理業

四国コカ・コーラボトリング株式会社

事業内容: コカ・コーラ等清涼飲料水の製造・販売

四国キャンティーン株式会社

ヘルスケア・スキンケア事業

キューサイ株式会社

事業内容: 健康食品・健康関連商品の製造販売

日本サプリメント株式会社

株式会社キューサイ分析研究所

株式会社キューサイファーム島根

CQベンチャーズ株式会社

Q'SAI USA Incorporated

●役員紹介 (2017年4月1日現在)

代表取締役	柴田 暢雄	会長
代表取締役	吉松 民雄	社長
取締役	ヴィカス・ティク	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 代表取締役副社長
監査役	宮木 博吉	常勤
社外監査役	一木 剛太郎	弁護士 宏和法律事務所
社外監査役	礪山 誠二	株式会社西日本フィナンシャルホールディングス 代表取締役副社長
社外監査役	大神 朋子	弁護士 國武綜合法律事務所

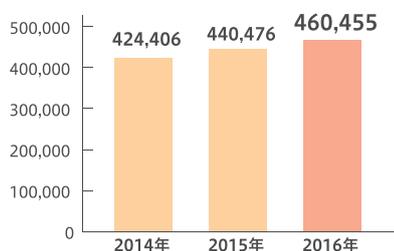
●業績の推移(連結)

(単位:百万円)

会計年度	2014年	2015年	2016年
売上高	424,406	440,476	460,445
営業利益	11,008	14,262	21,143
経常利益	10,609	13,723	20,602
当期純利益	4,482	9,970	5,245
総資産	337,260	378,105	377,468
純資産	254,150	260,878	261,173

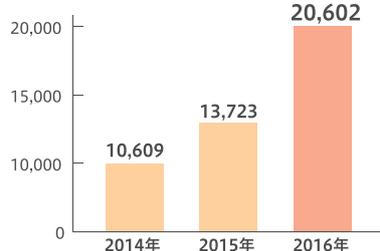
売上高

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)

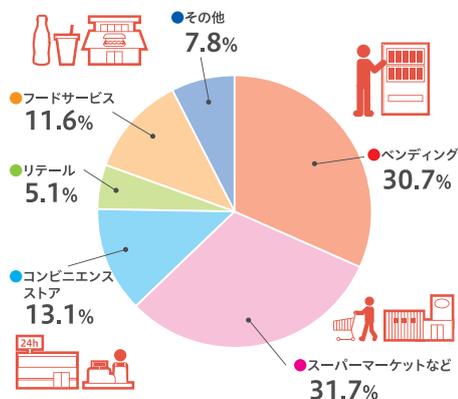


当期純利益

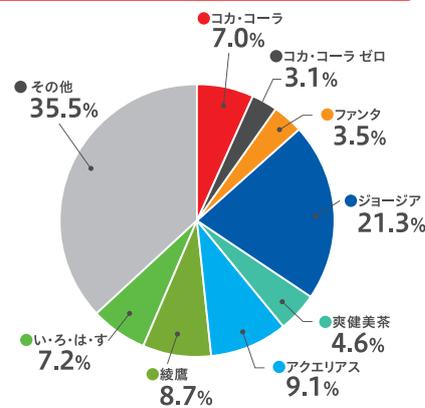
(単位:百万円)



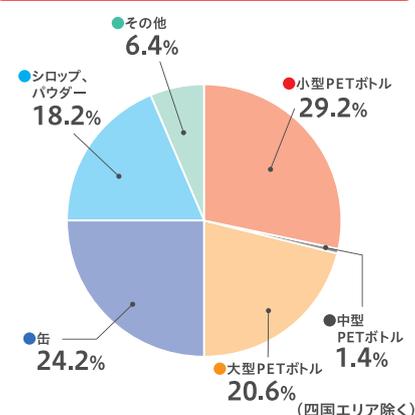
販売チャネル別 販売数量構成比(当期)



ブランド別 販売数量構成比(当期)



パッケージ別 販売数量構成比(当期)



●沿革

- 1960年(昭和35年12月) 飲料の製造・販売を目的とし、資本金5千万円をもって日米飲料株式会社を、福岡市長浜町一丁目5番地に設立
- 1999年(平成11年7月) 山陽コカ・コーラボトリング株式会社と合併し、商号をコカ・コーラウエストジャパン株式会社に変更
- 2001年(平成13年4月) 三笠コカ・コーラボトリング株式会社の株式を取得し、子会社とする。
- 2006年(平成18年7月) 商号をコカ・コーラウエストホールディングス株式会社に変更し、飲料・食品の販売に関する営業を新設したコカ・コーラウエストジャパン株式会社に承継させる会社分割を実施 近畿コカ・コーラボトリング株式会社を完全子会社とする株式交換を実施
- 2007年(平成19年4月) 南九州コカ・コーラボトリング株式会社に出資し、同社が持分法適用の関連会社となる。
- 2009年(平成21年1月) コカ・コーラウエストジャパン株式会社、近畿コカ・コーラボトリング株式会社および三笠コカ・コーラボトリング株式会社を吸収合併し、商号をコカ・コーラウエスト株式会社へ変更
- 2013年(平成25年4月) 南九州コカ・コーラボトリング株式会社と株式交換により経営統合
- 2014年(平成26年1月) 南九州コカ・コーラボトリング株式会社を吸収合併
- 2015年(平成27年5月) 四国コカ・コーラボトリング株式会社の株式を取得し、子会社とする。
- 2017年(平成29年4月) コカ・コーラウエストジャパン株式会社と経営統合
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社を発足



見学無料
Welcome!
工場見学

コカ・コーラ社製品を多くのみなさまに親しんで頂くため、コカ・コーラウエスト株式会社の2工場と四国コカ・コーラボトリング株式会社の小松工場で、工場見学を実施しています。「コカ・コーラ」の歴史や環境への取り組みなどを紹介させて頂くとともに、実際に製造工程を見て頂きながら製品ができるまでを楽しく体験して頂けます。

2016年は3工場で約84,600人のみなさまにご来場頂きました。工場見学は、地域のみなさまと直接会話ができる貴重な機会であり、地域社会貢献の重要な活動として取り組んでいます。

マジカルエコーラのファクトリーツアー
京都工場



ツアーガイド形式により、製品が完成するまでの工程を楽しみながら体験することができる施設です。



ウェルカムゾーン
ウォータースクリーンがお出迎え。「コカ・コーラ」グッズの販売をしています。



スタディゾーンシアター
2016年9月に全面リニューアルし、過去の懐かしい製品パッケージなど展示内容が充実しました。



スタディゾーンタイムトンネル
宇宙船内をイメージしたトンネルの中で、「コカ・コーラ」の歴史を紹介しています。

地域に開かれた公園工場(えびの工場)
グリーンパークえびの



製品ができるまでの工場見学だけでなく、コレクションギャラリーやフラワーガーデンなど、ご来場のみなさまにお楽しみ頂ける施設です。



ショップ
「コカ・コーラ」のオフィシャルグッズを多数取り揃えています。工場見学のお土産に最適です。



コレクションギャラリー
「コカ・コーラ」が誕生してから現在に至るまでのさまざまなコレクションを展示しています。



フラワーガーデン
広々とした花畑では、春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスの花をお楽しみ頂けます。

四国唯一のコカ・コーラボトリング工場
小松工場



およそ1時間の工場見学に加え、ギャラリーのグッズや屋外の1928年製のポルトガル・リスボン市電も人気の施設です。



プレゼンテーションルーム
ガイドによる説明や映像で、小松工場の概要や四国コカ・コーラボトリング株式会社についてご紹介しています。



ギャラリー
今では販売されていない珍しいボトルや缶の製品、グッズを展示しています。年に何度か入れ替えているのでピーターにも好評です。



リスボン市電
1928年に製造されたポルトガル・リスボン市電を屋外に展示しています。2007年まで高知市を走っていました。記念撮影に人気です。

受付人数: 2名~50名

所在地: 京都府久世郡久御山町田井新荒見128
休館日: 月曜日(ただし、第一月曜日、祝日・振替休日除く)、
年末年始および臨時休館日

アクセス

電車: 近鉄大久保駅からバスで約15分~20分
京阪中書島駅からバスで約15分
車: 京滋バイパス・久御山インターより約10分
駐車場: ツアー参加者専用駐車場19台(バス2台)あり

お問い合わせはこちら

0774-43-5522

受付時間 9:30~11:30 12:30~17:00(休館日を除く)

工場見学は、
完全電話予約制

受付人数: 1名~(自由見学)
見学時間9:30~16:30(見学受付は16:00まで)

所在地: 宮崎県えびの市大字東川北字有留1321-1
休館日: 月曜日(祝日の場合は翌日)、
年末年始および臨時休館日

アクセス

電車: JRえびの駅からタクシーで約7分
車: 九州自動車道・えびのインターより約3分
駐車場: 普通自動車176台、車椅子専用2台、大型バス6台

お問い合わせはこちら

0984-25-4211

受付時間 9:30~17:00(休館日を除く)

工場見学は、
自由見学(予約不要)

受付人数: 2名~45名

所在地: 愛媛県西条市小松町妙口甲806-1
休館日: 土曜日、日曜日、祝日、
年末年始および臨時休館日

アクセス

電車: JR伊予小松駅からタクシーで約10分
車: 松山自動車道・よ小松インターより約5分
駐車場: 見学用駐車場有

お問い合わせはこちら

0898-76-3030

受付時間 8:30~17:00(休館日を除く)

工場見学は、
完全電話予約制(3日前までに予約必要)

工場見学の詳細はホームページをご確認ください。 ※「マジカルエコーラのファクトリーツアー」は京都工場のみで実施しています。